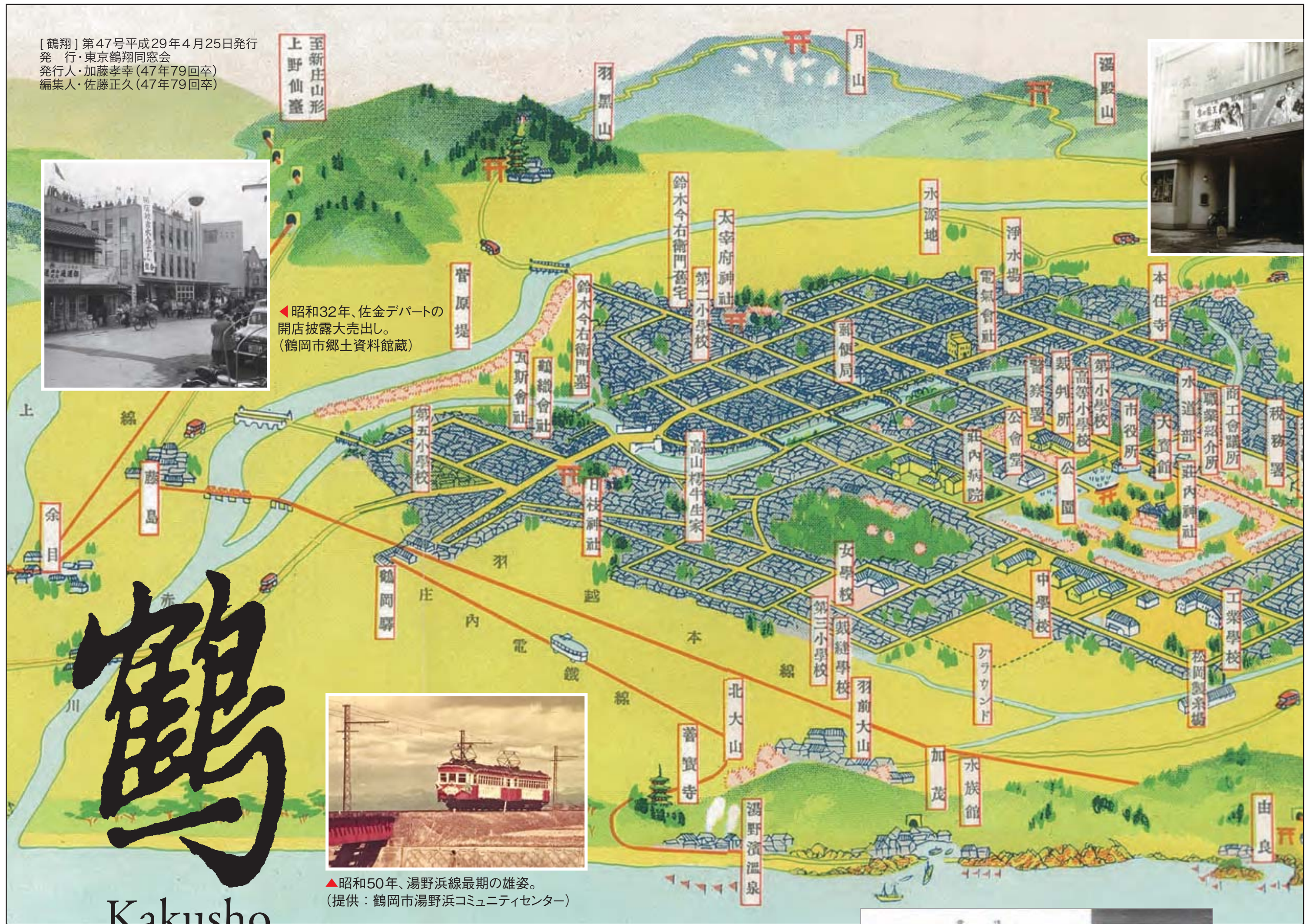
[鶴翔] 第47号平成29年4月25日発行
発　行・東京鶴翔同窓会
発行人・加藤孝幸（47年79回卒）
編集人・佐藤正久（47年79回卒）



◀昭和32年、佐金デパートの開店披露大売出し。（鶴岡市郷土資料館蔵）

▲昭和50年、湯野浜線最期の雄姿。（提供：鶴岡市湯野浜コミュニティセンター）

鶴翔 Kakusho

題字／初代会長 故・田倉八郎氏

『【再発見】よく知られた事柄の、従来気付かなかった側面をあらためて見いだすこと』と広辞苑にあります。
「ふるさと、再発見！ 今年もおもしぇぞ 東京の庄内」をテーマに、記憶の片隅にかすかに残るふるさとを探しました。
ふるさとを離れ、長い時が流れた今だからこそ、思い出の中にあらたな「鶴岡・庄内」に気付くのかも知れません。
思い出を肴に皆様のお越しをお待ちしております。

▲縣立鶴岡中學校校歌・鳳嶺月峰と講堂。（提供：佐藤文郎）

第47回 総会のテーマ

ふるさと、再発見！

TSURUOKA・・・・・・SHONAI

今年もおもしぇぞ 東京の庄内

ロゴ作成／佐藤正久（昭和47年79回卒）

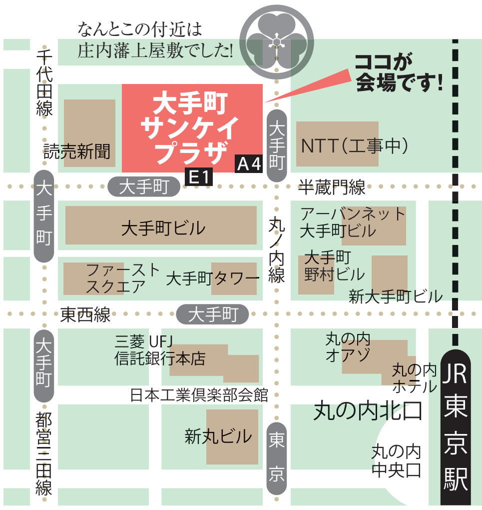
第47回 東京鶴翔同窓会のご案内

日時 平成29年6月10日（土） 午後2:00～4:30（受付開始／午後1:00）

場所 大手町サンケイプラザ4階ホール
千代田区大手町1-7-2　☎03-3273-2258
[地下鉄] 丸ノ内線、東西線、千代田線、半蔵門線、都営三田線で大手町下車（A4・E1出口直結）[JR線] 東京駅丸の内北口より徒歩約7分

会費
一般会員……………………8,000円
高齢会員（昭和30年卒以前）…4,000円
若年会員（平成17年卒以後）…4,000円
（他に東京鶴翔同窓会年会費、一口1,000円ですが、二口以上のご協力を賜りたくお願い申し上げます。）

参加申込み 同封のハガキ：5月13日（土）投函まで。ホームページ：5月20日（土）まで。
東京鶴翔同窓会ホームページ　http://www.tokyokakushou.com
東京鶴翔　検索　※事前のお申し込み・お振込がスムーズです。ご協力お願いいたします。



◀昭和30年頃の文化映画劇場「文映」。（提供：鶴岡市郷土資料館）

▼天神祭の仮装行列。銀座通りにて。（「鶴岡市政と市民77号」昭和33年6月1日鶴岡市役所発行）

▼温海温泉本町通り。大正～昭和初期か？（提供：カー・アンド・ドライバー）

鶴岡市及附近名勝案内
昭和初期、鶴岡市役所が発行した観光案内地図。（提供：カー・アンド・ドライバー）

みなさまのご来場を心よりお待ちしております!

※メニューは変更になる場合がございます。ご了承ください。

庄内の地酒にイカの一夜干し、だだちゃ豆、漬物に栃餅。ふるさとの味でおもてなし!

庄内の今昔の映像を巨大スクリーンでお届けします!

懐かし映像盛り沢山です。

撮影：地主忠夫（昭和38年70回卒）

もちろん、2次会もやります!
17:00より同サンケイプラザビル地下2階『全や連』にてスタート!
会費は…3,000円です。
総会が終わりましたら、会場からそのままエスカレーターで地下2階まで、お降りください。

広告

ふるさとの情報をお届けします。

鶴岡・庄内のこころ――荘内日報

(上)「荘内自由新聞」から「荘内日報」に改題した昭和24年10月1日付紙面
(中) 柏戸関（櫛引地域出身）の横綱推挙を報じた昭和36年9月28日付紙面
(下) 現在の紙面。平成22年4月にカラー化

第47回東京鶴翔同窓会の総会開催、おめでとうございます。この度の総会ご盛会を祈念します。

「荘内日報」は1946（昭和21）年、前身の「荘内自由新聞」の週刊発行に始まり、今年で71年の歴史を刻みました。「庄内はひとつ」を創刊の理念に、「時代をつなぎ、心をつなぐ」を郷土紙の使命と心得ています。

「庄内」というくくりは、旧庄内藩酒井家の歴史と重なります。酒井家3代忠勝公が信州松代からこの地に移ったのが1622（元和8）年。2022年には入部400年を迎えます。

庄内空港実現に一丸となっていたころ「庄内33万人の悲願」と訴えていました。昨年の開港25周年を前に2015（平成27）年の国勢調査では28万人を割りました。鶴岡市の人口も2005（平成17）年の合併時の14万人から10年間で1万人超の減少となり、年間出生数は900人を下回り、少子化が加速している現状にあります。

そうした中でも鶴岡は今、慶應義塾大学先端生命科学研究所を核にしたバイオベンチャー企業の勃興、国内唯一のユネスコ食文化創造都市認定を基に、国内外の注目を集めています。「鶴岡に行けば何かある」「面白いことができる」と、20、30代の若手が移り住み、多様な起業が生まれ、2016年度の同市への移住者は50人ほどに上ったようです。

昨春、視察に訪れた当時の石破茂地方創生担当大臣は鶴岡・庄内を、「地方創生のトップランナー」と評しました。チャレンジへの気風が盛り上がってきています。

「荘内日報」は時代と地域と心をつなぎ、これからもふるさとの元気を発信していきます。今後とも変わらぬご愛顧をお願い申し上げます。

株式会社 荘内日報社
代表取締役社長
橋本 政之
（昭和50年82回卒）

●ふるさと情報コンテンツ●
・庄内地域の政治、経済、社会の情報満載
・高校同窓会、ふるさと会の活動を伝える「首都圏だより」
・地元で奮闘する企業紹介の企画「情熱と創造　庄内から挑戦」
・好評連載　佐高 信氏、石川 好氏のエッセー
etc.

帯封（毎日郵送）▶購読料1カ月2,160円＋郵送料1,050円　メール便（1週間分まとめて送付）▶購読料1カ月2,160円＋送料1回80円（1カ月320～400円）
〒997-0035 山形県鶴岡市馬場町8-29 TEL.0235-22-1480 FAX.0235-22-2633 http://www.shonai-nippo.co.jp/

同窓会は学術団体に進化か？

東京鶴翔同窓会 会長
菅 徹（昭和37年69回卒）

6月、東京鶴翔同窓会は47回目を迎えます。

今年も無事に開催できることを関係するすべての方々に感謝しなければと、改めて思う次第であります。

ここ数年、総会は故郷の文化探訪に沿った内容をテーマにし、昨年は「庄内の食文化」を取り上げ、お陰様で会場においてまで美味しい思いをし、感謝々々の会でした。総会提供の食材が去年は小鯛（コデ）で今年はクチボソかと思ったら「だめよ今年は、勉強するんだから」との実行委員会のご託宣であります。

そこでテーマは「ふるさと、再発見」とアカデミックになり、知らなかった故郷の歴史研究まで踏み込もうということになりました。

なるほど、我々は18歳で故郷を離れ庄内がどういう土地であったのか、いつ頃何があったのか、さほどの知識もないままに都会の雑踏の中で時が過ぎてしまいました。

故に今年のテーマは、知的好奇心とふるさと敬慕の情を満たす、まことに意義深い事と思います。

わが同窓生の知的水準たるや相当のレベルにあることはよくわかっていることではありますが、このまま水準が高くなり続けると早晩「学術団体」の域に達するかもしれません。願わくば小生ごときの浅学非才の者でも理解できる部分も留めておいていただきたく希望するわけでありますが、文化勲章受賞者2名の栄誉があり、次はノーベル賞かとの胸躍る期待も持ちたいものです。

6月10日の総会は、試験や通信簿は無しにしますとの実行委員の温情に感謝し（笑）、皆で楽しく故郷や母校の歴史を語りましょう。

東京鶴翔同窓会 第47回総会に向けて

鶴翔同窓会 会長
齋藤 正志（昭和44年76回卒）

東京鶴翔同窓会の皆様、今年も総会のご案内をいただきありがとうございます。鶴翔同窓会を代表してご挨拶申し上げます。

先日、平成28年度の卒業式に出席して参りました。195名の卒業生が、清々しく立派に巣立って行かれました。多くの優秀な生徒が東京方面に進学されることでしょう。将来的な受け入れを宜しくお願い致します。

卒業式に出席して思う事は、中央で活躍している皆様は素晴らしいとは思うのですが、少しでも多くの優秀な若者が地元に帰って活躍して欲しいものだという事です。慶応の先端研を始め、がん研、サイエンスパークの整備事業など、魅力的な環境も整って来ており、将来的な人的活性化を期待する所です。

さて、同窓会の近況ですが、昨年度は5年毎の改訂版会員名簿も無事発刊できました。皆様には賛助広告や協賛金などを多数頂き、ご協力に感謝申し上げます。

次年度はいよいよ節目の130周年になります。母校の教育環境向上のために記念事業を計画しているところです。新たな寄付もお願いしていかねばならないかと思っております。ご支援、ご協力をお願い致します。

同窓会だよりでも毎回お願いしておりますが、同窓会会計の基礎になる維持会費の集まりが伸び悩んでいます。安定した同窓会の運営のためにも、より関心を持って頂いて、ご協力をお願い致します。

最後に、東京鶴翔同窓会の益々のご発展と、会員の皆様のご健康とご多幸をお祈り致しまして挨拶とさせて頂きます。

—庄内の歴史と風土をたずねて—
公益財団法人 致道博物館
〒997-0036山形県鶴岡市家中新町10-18
TEL 0235-22-1199
http://www.chido.jp
E-mail：chido@axel.ocn.ne.jp

祝 第47回 東京鶴翔同窓会
株式会社 荘内銀行
代表取締役頭取 上野雅史（昭和51年83回卒）
荘内銀行 ［本店所在地］〒997-8611 鶴岡市本町1丁目9番7号 ［電話］0235-22-5211（代表）

酒造資料館あります
映画上映・試飲コーナーなど
酒王 初孫
東北銘醸株式会社
酒田市十里塚字村東山125番地の3
TEL 0234（31）1515 FAX 0234（31）5588
URL http://hatsumago.cp.jp

銘酒 大山
酒は大山愛の酒
お酒は20歳になってから
加藤嘉八郎酒造株式会社
〒997-1124 鶴岡市大山3-1-38 TEL0235（33）2008

JTBアンケート総合評価90点以上13年連続！
●じゃらん泊まって良かった宿大賞 2016
クチコミ総合山形県第1位！ 東北絶景展望風呂大賞受賞！
日本源泉かけ流し温泉協会加盟
山形県湯田川温泉 九兵衛旅館 別館 たまや 珠玉や
【平日2名様1室】九兵衛旅館 15,000円～／珠玉や 13,500円～（諸税別）
〒997-0752 山形県鶴岡市湯田川乙19 ホームページ 九兵衛旅館 検索
TEL.0235（35）2777 代表取締役社長 大滝研一郎（昭和62年卒）

免許取るなら
代表取締役 齋藤征士（昭和37年69回卒）
鶴岡自動車学園
〒997-0045 山形県鶴岡市西新斎町6-34 電話 0235-22-6200
http://www.tsurugaku.com/ e-mail:menkyo@tsurugaku.com

旧町名の由来 鷹匠町
酒井氏が御家中町として町割り。
藩主の鷹狩りに使う鷹を飼育する御鷹部屋やその訓練に当たる御鷹匠の屋敷があったことから名付けられた。

鶴南生の活躍、朗報多し

鶴岡南高等学校 校長
京谷 伸一

鶴岡南高等学校に校長として赴任し一年が過ぎようとしています。昨年東京鶴翔同窓会に出席し、首都圏で活躍する錚々たる皆さまが集っておられることに圧倒されました。この人材こそ本校の歴史と伝統の力そのものと感じています。この素晴らしい伝統を引き継ぐ生徒たちについて、6月以降の活躍をいくつかお知らせいたします。

まず、昨年度のインターハイには水泳個人、弓道団体、アーチェリー団体で出場、また陸上個人で全国選手権大会に出場しました。弓道とアーチェリーは新人チームが全国選抜大会にも出場しています。吹奏楽部は全国大会こそ逃しましたが、東北大会で金賞を受賞しました。科学部の全国高総文祭での発表はもはや恒例です。英語ディベート大会や地理五輪では全国レベルで活躍・受賞し、さらには日本進化学会など専門の学会で発表する生徒もいます。

これらは、本校の取り組むSSHの成果でもあり、全国を相手に挑戦することで一層の向上を見せています。そして最近、SSHの継続採択決定という吉報が入りました。これで本校は第二期目の指定となり、より充実した探究活動を継続していくことができるようになりました。

この春の進学の状況も、東京大学へ現役2名の合格を含んで国公立合格者が123名、医学部医学科現役合格3名と大健闘しています。その他にも多くの活躍、朗報がありますが、すべてを報告するには紙面が足りません。詳しくは総会で報告いたします。当日会場でお会いできますことを楽しみにしています。

鶴岡が誇る地域資源

鶴岡市長
榎本 政規（昭和43年75回卒）

鶴翔同窓会の皆様には、日頃より鶴岡市の発展にご理解とご協力を賜り、厚く御礼申し上げます。『ふるさと、再発見！』をテーマに開催されますこのたびの総会が、故郷を離れている皆様にとって、本市の様々な魅力をあらためて発見していただく機会となれば幸いに存じます。

さて、日本で唯一の「ユネスコ食文化創造都市」である本市ですが、昨年は新たに二つの認定をいただくことができました。

一つは4月に、様々な文化財群を国内外に発信し地域の活性化を図ることを目的とした「日本遺産」に、出羽三山が認定されました。また11月には、食・農林水産業・景観などを活かして海外から誘客を図り、農林水産物の需要拡大・農山漁村の所得向上に繋げることを目的とした「食と農の景勝地」にも、全国44地域の中から本市を含む5地域が認定されております。

これらは、本市に連綿と受け継がれてきた豊かな自然環境や食文化などの資源が、国内外から高く評価いただいている証であり、大変喜ばしく思っております。

一方で、慶應義塾大学先端生命科学研究所を核としたバイオサイエンス分野での最先端の研究や産業なども、今日の鶴岡に欠くことのできない新たな資源となっています。

鶴岡が誇るこれらの資源を存分に活かし、より一層国内外に向けたPRや地域の発展に取組んでまいりますので、皆様には今後とも様々な機会での鶴岡のPRにお力添えを賜りますようお願い申し上げ、挨拶といたします。

山形県 唯一のシーサイドコース
湯の浜カントリークラブ
日本海を狙い打て！名物11番ホール
〒997-1117 山形県鶴岡市下川字龍花崎 20-10
TEL:0235-75-2044 FAX:0235-75-3012 URL:http://www.yunohama-cc.jp/

ユネスコ食文化創造都市 鶴岡
鶴岡江戸屋敷
鶴岡市東京事務所
〒134-0088 江戸川区西葛西 7-28-7
TEL:03-5696-6821
FAX:03-5696-6822
E-mail:tokyo@city.tsuruoka.yamagata.jp

栄光富士
創業1778年 手作りの酒造
冨士酒造株式会社
鶴岡市大山三丁目 32-48 TEL 0235-33-3200
お酒は20歳になってから。

月山聖水栽培米100%酒蔵
全国新酒鑑評会 第一部 連続金賞受賞記録 日本一
—米水人神100%地護酒—
珠玉の一滴 白露垂珠 地讃地匠
竹の露（資）

H28BYより、全量純米蔵へ
ちょっと一杯、
にっこり二杯、
誉めて鯉川三杯目
鯉川酒造株式会社
山形県東田川郡庄内町余目字興野42

海坂の食と庄内浜の旬を訪ねて
旅彼 坂本屋
〒999-0752 山形県鶴岡市三瀬 己91
TEL：0235-73-2003 FAX：0235-73-2126
Email：sakamoto@dream.ocn.ne.jp

旧町名の由来 鷹匠町七ツ蔵脇小路
現在の鶴岡南高校のところに藩の年貢米を収納する米蔵が七棟あったので、この名がつけられた。
脇小路は現在の鶴岡南高と鶴岡工業高校の間の道である。

若い後輩につなぐために二次会を盛り上げよう「ケ・セラ・セラ」なるようになるから、する！へ

第47回東京鶴翔同窓会 実行委員長
加藤 孝幸（昭和47年79回卒）

恥ずかしながら、私はこの同窓会があると知りつつほとんど関わってこなかった。学生時代は知らなかったし、若い時はほとんど興味がなかった。会報が送られてくるようになってからも、仕事など目の前のことの忙しさで参加しようとは思わなかった。個人的に誘いがあったわけでもなく、何かのきっかけで随分前に参加したことがあったが、同世代が少なく話しが合わなかった。

私は5年ほど前に姉に誘われて久しぶりに参加し、少しずつ話し相手ができた。また、病気して仕事内容が大きく変わったことで、参加しやすくなった気がする。

3年前に部活動の先輩に会い、初めて二次会に参加した。その時、実行委員会のことが話題になり、自分の同期をなんとかしなくてはと思った。しかし、いつからどのように実行委員会が始まるのかもわからなかった。そんな状態だったので、まさか自分が実行委員長になるとは思ってもいなかった。

こんなことになるのだったら、もっと早くから関わって、実行委員会の流れを知っておくべきだったと後悔した。10年後輩の参加率が多く、聞くと二次会で盛り上がっているとのこと。

事務局長を中心に実行委員会の事前の準備会などが始まり、少しずつ見えてきた。実際にやってみると、役員の方々や実行委員会の負担は大きい。中学校の教員生活をやってきた自分にとって、まるで周年行事の運営をやっているような気がした。

この会を恒久化させるためには、すべての人が「やって良かった」「来年もまた来よう」と思えるような会にすることが大事と思う。

東京の庄内へ！

第46回東京鶴翔同窓会 実行委員長
小林 桂子（昭和46年78回卒）

昨年の実行委員の活動を機に、鶴岡市が庄内の海・山・里の豊かな幸によりユネスコの食文化創造都市の認定を受け、様々な活動をしていることを知りました。学術文化面でも世界最先端の研究開発を行う慶應義塾大学先端生命科学研究所を中心としたバイオ産業の形成、次代を担う高校生を対象にしたスーパーサイエンスハイスクールでの母校の生徒の活躍など、驚きの情報をたくさん得る事が出来ました。

そして、四月に帰省をし、実家のある三川町から見える山々、川、畑に故郷の空気を満喫し、南高の周りから公園・荘内神社・城跡・内川のあたりを歩き、八月には孫二人を連れて湯野浜海水浴場で真っ黒になるまで泳ぎ、赤川の花火に感動し、九月には総会で「んめ、ごっつぉ」を提供してくれた三瀬の坂本屋さんで旬の美味しいお料理に舌鼓を打ち、日本海に浮かぶ白山島と鳥海山の両方が見えるところに連れて行ってもらい「お～、会報の表紙と同じだ！」と感激し、本当に楽しい一年間でした。

十代の鬱々とした思春期には、内側々々へと心が向いて、鶴岡公園の桜などちっとも目に入らず下を向いて歩いていたように思います。今還暦もとうに過ぎ、同窓会やふるさと会などに出かけるのは、年齢と共に自然豊かな故郷・仲間への郷愁が、心に潤いを満たし豊かさを与えてくれるからかもしれません。今年はもっともっと多くの故郷の魅力を再発見し、「おもしぇぞ東京の庄内！」と盛り上がる同窓会を楽しみに参加します。

相模大野東口（南側）より徒歩7分（国道16号線沿い）
胃カメラ（経鼻・経口・麻酔）大腸内視鏡検査（ポリープ切除術）
内科・消化器内科 さいとう内科医院
Saito clinic
院長 齋藤俊司（昭和57年89回卒）
〒252-0318 相模原市南区上鶴間本町4-48-3 相模大野メディカルヴィレッジB棟1階
TEL：042（705）3629 FAX：042（705）3859 http://www.saitonaika.com
▶9:00～12:00 15:00～18:30（木曜、日曜祝日休診）土曜日13時まで

理事長補佐 金野 信勇（36年68回卒）
理事長補佐 鈴木 孝純（42年74回卒） 関東募集担当 坂田 敬一（42年74回卒）
東北公益文科大学
Tohoku University of Community Service and Science
《地域経営系》経営コース、政策コース、地域福祉コース
《交流文化系》国際教養コース、観光・まちづくりコース、メディア情報コース
〒998-8580 山形県酒田市飯森山3-5-1 E-mail：ao@koeki-u.ac.jp（入試事務室）
0120-41-0207 http://www.koeki-u.ac.jp/

わたなべ内科胃腸科
WATANABE CLINIC
院長 渡部 英一（昭和57年89回卒）
〒136-0074 東京都江東区東砂7-19-13～102
ベルコモン南砂メディカルプラザ1F
TEL：03-5617-1150 FAX：03-5617-1157

医療法人社団
三浦産婦人科医院
SINCE 1910
院長 三浦 宏平（昭和34年66回卒）
〒997-0024 山形県鶴岡市朝暘町4-10
TEL.0235-22-0228 FAX.0235-25-9722
http://www6.con.ne.jp/~lcmiura1/

むかえだ歯科クリニック
迎田 洋（昭和63年95回卒）
［診療時間］平日 9:30～12:30／14:30～19:30
土曜 9:30～12:30／14:30～17:30
休診日 水・日・祝日
〒132-0011 東京都江戸川区瑞江4-44-14 プリマ・クラッセ1F
TEL＆FAX 03-3670-1774

精神科・心療内科 うつ・不眠・不安・もの忘れ・認知症予防など お気軽にご相談ください
ブレインケアクリニック
院長・博士（医学） 今野 裕之（平成6年101回卒）
診療時間 午前10～午後1時 午後3時～午後7時
休診日 水・土・日・祝日
〒160-0017 東京都新宿区左門町13 磯部ビル2階
（丸ノ内線四谷三丁目駅 徒歩2分）電話：03-3351-3386

旧町名の由来 馬場町
酒井氏時代になってから上級武家の町となり、家老級家臣が住んでいた。
当時は広大な屋敷以外にも学校（致道館）御厩等があり、乗馬訓練のための馬場があったことから馬場町と命名された。

庄内の気風に触れて

佐藤 本次郎（昭和27年59回卒）

高2の二学期、転入試験を受け晴れて鶴高生になった。クラスに5名のセーラー服、初めて経験する共学に青春小説「青い山脈」の新風を感じた。殆どが高い朴歯に黒マント、腰に手拭いを下げ、丸刈り頭以外は旧制高校生然として大人びて見えた。夜間部、学寮があり、隣県の磐城高との学制、身なりの差に戸惑ったが、新旧併せ持ち魅力的だった。

席は窓際の最前、真ん前に達磨ストーブがあり、雪の日は溜まり場となり、皆から庄内諸々を教わった。著名な学者、哲人、武人と縁のあることを聞き、早速「三太郎の日記」を入手した。荘内中学入学前に倫理学に親しんだ偉才が身近に思えた。後に知ったが、名だたる諸氏は強い個性と予見能力、反骨精神の持主であったようだ。藩の善政のもと、個性を重視し、気骨や忍耐力を育む教育風土が培われてきたのではないかと思い巡らした。

昭和30年夏、母校27～29年卒の10人（女性3名）と帰郷し徹夜手作りの人形劇を小学校で演じた。善良な暴れ者の話に学童は沸いた。当の友は、法、文、理、農学の各分野で学者、教育者の功績を残している。誠実で粘り強く気骨の気風を肌で感じ、友に敬服している。

昨今、全国同じ様な教育環境にあり、地域の特性は薄れつつあるが、継がれてきた文化の素地は残されている。伝統ある母校が先読みの態勢を整えていることはまことに喜ばしい。同時に、庄内の風土が育ててきた気風が大切に受け継がれていくよう切望する。

ふるさと再発見

澤川 菊雄（昭和43年75回卒）

藤沢周平の生家は私が育った家のすぐそばである。このことを知ったのは東京へ出て20年もたってからのことである。最初に出会った本は「ふるさとへ廻る六部は」というエッセイである。そこに描かれている風景は、月山や金峰山、青龍寺川といった地理的なものにかぎらず、冬に行商のおばさんが雪のちらつくなか鱈などを売り歩き、時に家の前で捌いている風景など、私が幼い頃に見た記憶そのままであった。大変懐かしく感動して読んだ覚えがある。

両親が健在な頃は、せめてもの親孝行と思って、盆暮れには帰省していたものであるが、なぜか、温海を過ぎるぐらいから落ち着かなくなり、トンネルを出て平野部に入ると急に山々の稜線が気になり、それと同時に、早く実家に着きたいという高揚感に包まれるのであった。

退職を機にロードバイクを始めたが、長い距離を走れるようになって最初に走ったのが日本海ロードである。新潟まで輪行（自転車を袋に入れて電車で移動）し、そこから海岸線を北上し鶴岡へ。電車で庄内に入った時とはまた異なる感慨（苦しみ、達成感）を覚えたものだった。翌年には、最上川沿いを上流にのぼり、国道112号線で田麦俣を経て鶴岡へ。庄内路を走っていると少年当時のことが思い起こされ、自分の根を再確認できるような気がするのである。

今、古希を前にしてまだ見ぬ世界へのあこがれのようなものを探しているのかもしれない。機会があれば、荒沢ダムや鳥海山も走りたいと思っている。

医療法人 楽生会
介護老人保健施設 きねぶち
理事長 木根淵光夫（昭和40年72回卒）
〒306-0642
茨城県坂東市長谷989-5
TEL.0297（47）3333 FAX.0297（47）3335
E-mail:inada@kine.jp

医療法人 楽生会
木根淵外科胃腸科病院
理事長 木根淵光夫（昭和40年72回卒）
〒306-0632 茨城県坂東市辺田1430番地
TEL.0297-35-3131 FAX.0297-35-9792 http://kine.jp

株式会社 遠藤会計事務所
代表取締役所長
税理士 遠藤研一（昭和44年76回卒）
事務所 〒997-0042 山形県鶴岡市新形町21番20号
電話 0235-22-2884（代表）FAX0235-24-3846

黒沢眼科医院
黒澤久子（昭和46年78回卒）
〒997-0027 山形県鶴岡市昭和町10-20 電話0235-24-9638

村田敏法律事務所
弁護士 村田 敏（さとし）（昭和45年77回卒）
〒160-0022 東京都新宿区新宿1-5-4
YKBマイクガーデン802号（丸ノ内線・新宿御苑駅より徒歩2分）
TEL：03-3352-5941 FAX：03-3352-6049

よつば アイクリニック
埼玉県
鴻巣市2-6-4
048-541-1231
大塚 明子（旧姓 島、昭和57年89回卒）
荒木 陽子（旧姓 島、昭和50年82回卒）

旧町名の由来 家中新町
最上氏の頃は二の丸内に上級家臣の屋敷があったが、酒井氏は城を二の丸まで広げその外側に三の丸を設けて、
そこに御家中（上級家臣）を住まわせた。そのうち城の西側が家中新町と名付けられた。

仏壇の上に神棚

清和 勝（昭和47年79回卒）

年に数回東京に行く機会がある。高度に集積された産業、学問、文化等々。流石に日本一の大都市であるとその度に思う。私も東京は好きである。娘二人も都心にいる。

庄内から、「いなほ」「とき」と乗り継いで四時間。庄内空港から一時間。近いと私は思うが、まだまだ遠いと思っている人が多い。特に経済活動に勤しんでおられる御仁がそうだ。東京とのパイプを太くし、庄内、鶴岡を活性化しようと試みておられる。そのアイディアは悪いと思わないが、そのパイプが相互通行でない不可逆的一方通行にならないように気をつけねばと思う。

相互通行の好例が庄内地方にある。仏壇の上に神棚がある。人が死んで仏になり仏壇に祀られ、三十三年の時を経て神になり、神棚に祀られる。明治政府の神仏分離令に庄内の人は逆らった（?）のかも知れない。死ねば仏になり、時が経てば神になると当たり前に考えている。私の住んでいる黒川では、ほとんどの住宅が東の方を向いている。その先には、春日神社、さらには月山がある。年に一度の王祇祭では、神の依り代である王祇様に月山から祖霊神をお迎えし、神様と酒食を共にし、能を舞う。神様は行ったり来たり忙しい。その王祇様も来年五月三日に二十年に一度新しい衣を纏う更衣式年祭が盛大に行われる。心和む循環がそこにある。大好きな庄内と東京のシナジー効果が生まれるよう、東京にお暮らしの皆様、是非お越しを。

ふるさと、再発見

上野 由部（昭和47年79回卒）

浅間山荘事件から東京に8年。時折訪れるも、あの時の風が懐かしい。

『黒川能』という民俗芸能を背負った家に生まれたためか、黒川から逃げるのが目的で飛び出した。自分なりの夢はあったが不本意な文系に身を置き、父とその知人の大学教授の策略で週一能楽堂通い。そこで知り得た知識と知人のお陰で今があるのも事実。

帰省して国語教師となったが同期の者は疑う。私も同じ思い。それでも長く続けると充実してくるものだ。『黒川能』も同様。40を過ぎ父の後を嗣ぎ20代目になってからは、余計なことを考える余裕はなかった。その後は公演と講演に追われている。県内は無論、全国あちこちに出向いている。パリ公演もいい経験になった。今年も静岡・横浜・東京と控えている。

今、黒川能と祭を起点に、地域文化の継承と発展を探っている。合併した鶴岡市には140以上の民俗芸能が現存。鶴岡市が食文化で旗揚げしたのも歴史的地域食からだ。地域の祭には必ず独自の食があり、芸能も息づいている。地域活性化に地域文化を活用する価値は高い。伝統と時流の調和を図り地域を元気にさせたいものだ。

教育現場を離れ、近くの小学校で『能』を教えている。「運命」とはいささか煩わしいものだが、「運命」とは過去・現在・未来と「命」を「運ぶ」こと。私たちは誰もがその使命を背負っている。

子授け・安産・お宮参りなら
越谷 香取神社
宮司 小林 桂子（昭和46年78回卒）
お問い合わせ・予約 ご予約はホームページのメールフォームからでも可能です。
〒343-0025 埼玉県越谷市大沢3-13-38 TEL:048-975-7824 FAX:048-975-2849
katori@etude.ocn.ne.jp http://katorijinja.com/ 越谷 香取神社 検索

寒河江法律事務所
弁護士 寒河江（さかえ） 孝允（たかよし） （昭和38年70回卒）
〒100-0013 東京都千代田区霞が関1-4-1 日土地ビル10階
電話 03-3502-0882 FAX 03-3502-0880

信頼の構築
石橋不動産 株式会社
代表取締役会長 石橋 政士（昭和45年77回卒）
代表取締役社長 石橋 遼大（平成12年107回卒）
〒997-0015 鶴岡市末広町13番1号
0120-81-5411

庄内の魅力を地域内外に発信!!
出羽庄内地域文化情報誌
Cradle
サポーター募集中!
通話料無料 TEL:0800-800-0806

高精度・高品質への挑戦
株式会社 サンテック
-精密機械加工品の受託生産-
社長 指田重治郎（昭和42年74回卒）
〒997-0011 山形県鶴岡市宝田3丁目6-1〔鶴岡東工業団地〕
TEL 0235-23-0377 FAX 0235-23-0460
チャペル&神殿 見学 毎日開催
結婚式・結納・七五三祝い・宴会
グランドエル・サン TEL 0235-24-4633 山形県鶴岡市東原町17-7
見学・事前相談 毎日開催
自宅葬・ホール葬・寺葬・宿泊・24時間搬送
アク・サン 鶴岡・本町・大山・余目・あつみ お問合せ 0120-91-5002

旧町名の由来 新屋敷町
酒井氏入国の際、家臣を住まわせるため、新しく武家屋敷として町割りを行ったので新屋敷（表新屋敷、裏新屋敷）と呼ぶようになった。現在は若葉町に入る。

私を第二の人生に導いた鶴翔

白山由希子（昭和47年79回卒）

「還暦を祝って、善宝寺さんにお参りして湯野浜さ泊まるさけ、こねが？」

海外赴任や国内での転居に明け暮れ、庄内との繋がりも無くなったと思った時にもらった中学の同級生からの電話。3・11の後でもあり何かを感じ参加しました。

東京の青山でショップとスクールを主宰していた時に受けた地震。ガラス張りのお店が唸りだしたのが怖くなり、軽井沢への移転を決意しました。

そんな中、現在の浅間高原ホテルをやらないかとのお話が来ました。全く知らない世界に飛び込むのが怖い上に、ホテルを購入する頭金も無い。そこで、当時所有していたワンルームマンションの店子Nさんに打診してみようという事になりました。

綺麗に整頓された事務所、そのテーブルの端に置かれた鶴翔。

「Nさん鶴南ですか？」

「そうですよ」の声も終わらぬ内に、「先輩今度私ホテルを買うんです。このマンション買って下さい！」

きっと私の突拍子も無い申し出に驚かれた事でしょうが、Nさんは静かに「いいですよ」と。それが始まりとなり、不思議に物事が流れて行きました。

今年の5月で4年目を迎える浅間高原ホテルですが、起源は庄内にあったのです。還暦のお祝いに貰った、いや預かった物は38室のホテルでした。友人と二人でDIYホテルとして創って来ましたが、夢は終わりを知りません。今回このような機会を頂いたのもご縁なら、今生かされているのも庄内から発したご縁。それに感謝しつつ楽しんで行こうと思っています。ありがとうございます。

だだちゃ豆で広がる輪

赤坂 隆子（昭和57年89回卒）

故郷鶴岡を離れて早二十数年。現在東京都目黒区に住んでいます。鶴岡には、夏のお盆とお正月に帰省しています。特に雄大な日本海を眺めながら入る湯野浜温泉は最高です。

娘が小さい頃は、鶴岡公園の白鳥を見に行ったり、学校の自由研究でお米を調べに酒田の山居倉庫を見学したりと、沢山思い出をつくりました。5年前には、私が小学校時代に遠足で行った羽黒山の石段上りに挑戦しました。無事に頂上に着いた時の嬉しさは忘れられません。

そんな大好きな鶴岡の「だだちゃ豆」は友達の輪を広げてくれました。東京のスーパーでは、「だだちゃ豆」はほんの一握りでも高い値段で売られているのを初めて見たときは驚きました。

そこで、友達が家に遊びに来た時に、実家近くの産直から送ってもらった「だだちゃ豆」を出したところ、「こんなによい香りでおいしい豆は食べたことがない」と喜ばれたのです。そこで早速、職場、ご近所、お世話になった人に「だだちゃ豆」を食べてもらったところ、とても喜ばれました。小さい子供がいる家では、「だだちゃ豆」を茹でているだけで「美味しそう」と台所に飛んでくるとか。

それは自分が、海も山もある自然豊かな環境で、いつも美味しいものを食べていたことに感謝する出来事でした。次の帰省を楽しみに仕事に励む毎日です。

明日の世界をデザインする
総合建設コンサルタント
yec 八千代エンジニヤリング株式会社
〒111-8648
東京都台東区浅草橋 5-20-8 CSタワー
（ISO9001,14001 認証登録）
TEL 03-5822-2900（代表）
FAX 03-5822-2785
http://www.yachiyo-eng.co.jp

浅間高原ホテル
愛犬と泊まれるお部屋もご用意しております。
リゾート、軽井沢での同窓会は如何ですか、
白山 由希子（昭和47年79回卒）
asama-kogen-hotel.com Tel:0279-86-5150
群馬県吾妻郡嬬恋村大前 2265-50

株式会社 ホンマ電機
相談役会長 本間 俊三
〒252-0302 相模原市南区上鶴間 1-12-1
TEL:042-746-1616（代） FAX:042-747-3463
エコアクション21 認証・登録番号 0008080
ホンマ電機 検索

鉄で支える人間企業
板垣鉄工
建築鉄骨／建築一式／その他鋼構造物
代表取締役 板垣 昌之（昭和55年87回卒）
本社・工場
〒997-1315 山形県東田川郡三川町大字神花字前外川原476-1
TEL 0235-66-4711 FAX 0235-66-4716 天神堂工業団地内
ITAGAKI

株式会社 スタジオ・オクト
STUDIO OCT
代表取締役 野 間 耕 治（昭和46年78回卒）
東京都渋谷区代々木3-2-7-402
TEL 03-5351-9201 FAX 03-5351-9205
E-mail oct@st-oct.com

鋼板、ステンレス、総合加工（切断、曲げ、切削、溶接）
株式会社 庄内シャーリング
代表取締役 池田 恭平（昭和29年61回卒）
■本社・本社工場 〒999-7611 鶴岡市上藤島字上川原80番地
TEL 0235-64-3600 FAX 0235-64-3700

旧町名の由来 最上町
元和八年、酒井忠勝転封のおり、最上氏改易で主人を失った浪人を足軽として抱え置いた町で最上家にちなんで町名が生まれたといわれている。

ふるさと、再発見！

TSURUOKA・・・

遠いふるさと

石川 禎浩（昭和57年89回卒）

南高卒業後、京都で暮らすようになって35年、今となっては信じられないが、往時鶴岡～京都は乗り換えなしだった。それも、夜行を含め一日4往復の列車が関西と庄内を結んでいたのである。寝台特急「日本海」が2便、寝台急行「きたぐに」、そして昼間の特急が「白鳥」、いずれも北陸経由だった。わたしの実家は浄土真宗の門徒で、本山の東本願寺には、村の篤信者たちが団体で参詣していたが、その際に父祖が使ったのがそうした列車であった。乗りっぱなしで8時間は確かに長いが、気楽な団体旅行だから、退屈するはずもない。何より乗り換えなしなのが助かるということで、京都は存外身近な場所だったのである。

ところが、度重なる交通「整備」のおかげで、今や陸路、空路ともに、一度は東京で乗り継がなければ、京都や大阪には行けない。この30年ほどで、関西は心理的にかなり遠い場所になってしまったわけである。

今、実家には母が一人残る。IT時代ということで、タブレット端末を使ってもらい、時々スカイプで顔を見ながら話はする。けれども、ハタハタの湯あげといった料理などは、むろん帰らなければ一緒には食べられない。一回一回の帰省が次第に貴重なものになりつつある。

見直した！ 我が家の食

堀 由美子（昭和57年89回卒）

7年前に母が亡くなり、新盆を迎えた時である。実家では父一人になったため、お盆を迎える準備をしようと実家に帰った。仏前を飾ろうと（精霊棚と呼ぶらしい）すると、毎年母を手伝ってきたにもかかわらず、供え物や膳の位置、数など細かなところが、うろ覚えで苦労した。そんなとき父が「つるおかおうち御膳」という本を見つけてきた。中には盆の精霊棚の例をはじめ、「田の神上げ」などに、神棚に供えていた料理や、我が家で夏の定番の「鍋焼き」など当たり前に食べていたものが、行事食や四季折々の郷土料理として紹介されていた。

実家は農家で、「田の神上げ」に尾頭つきの魚、「大黒様の御歳夜」にハタハタの田楽や豆を使った料理、「大晦日」には納豆汁に塩鱈の煮つけ、「食い初め」には鮭など、何があろうと欠かさず決まった料理を供え、手を合わせていたが、私は、それらに振り回されるようで、うっとうしく感じるときもあった。

また、中学の献立調べの宿題で「鍋焼き」はみんながわからないだろうと「なすのみそ炒め」などと命名して提出した。しかし、こうして改まって紹介されると、我が家の風習や家庭料理もなんだか誇らしく思える。実家にいたときと同じにはいかないが、我が家なりに鶴岡の旬の味を楽しみ、感謝する心を忘れないようにしたいと思う。

↑庄内の食のレシピ集大成。（鶴岡食文化創造都市推進協議会／刊）

アマゾンコレクション 保護・夢 基金

アマゾンの生活用具や装飾品、剥製や標本など２万点もの学術的価値が高い貴重な資料を研究・保存・収蔵するために基金を設立しました。何卒みなさまの温かいご協力をお願い申し上げます。

●申込み方法
1．寄付申込書を下記よりダウンロードして提出ください。
http://iva.jp/kosuikyo/kifu_amazon.pdf
2．寄付金をご送金ください。
下記の公益財団法人公益推進協会の銀行口座または郵便振替口座にお振り込みください（振込手数料はご負担ください）。
三菱東京 UFJ 銀行 新宿中央支店　普通預金 3469137
口座名義　ザイ）コウエキスイシンキョウカイ

＊寄付金控除について　確定申告を行なうことで、寄付金から2000円を引いた額の最大50%が戻ります。例）１万円寄付した場合は4000円、５万円の場合は24000円が戻ります。
●お問い合わせ先
公益財団法人公益推進協会　アマゾンコレクション保護・夢基金
事務局　担当・高野　e-mail info@kosuikyo.com
〒105-0004 東京都港区新橋 6-7-9　新橋アイランドビル２階
電話 03-5425-4201　FAX 03-5405-1814

アマゾン研究所（http://amazon-yy-collection.com/）
所長　山口　吉彦（昭和 35 年 67 回卒）
〒997-0827 鶴岡市陽光町 17-11　電話 0235-24-2644
協賛／（株）アドリブ（出版・編集・DTP・校閲校正）
代表取締役　伊藤　豊（昭和 45 年 77 回卒）
〒102-0071 東京都千代田区富士見 1-2-27
電話 03-3511-6055　FAX 03-3511-6056

語部集団 不偶坊
代表 菅原　司（昭和38 年70回卒）
〒178-0065 東京都練馬区西大泉 1-15-8-401
Tel & Fax. 03-3978-4311

有限会社 オカベ
代表取締役 岡部 香澄
〒116-0011　東京都荒川区西尾久 5-7-25
Tel. 03-3893-9876

旧町名の由来 七軒町　酒井氏が入国した際、蓮台院境内の一部を召し上げて、そこに若様付きの七軒のご家中屋敷を置いたところから、七軒町と命名された。

ふるさと、再び

坂田 俊次（昭和48年80回卒）

目を閉じると見えてくるものがある。木々の騒めきや風の音、微かな香り。これらは、高校生の時に感じたものと同じものなのか？目を開けると、自分が通っていた南高とは違った風景が展開されている。自分が入学試験を受ける為に通り、卒業式が終わり出てきたあの裏門は、今は無くそれに続く道もない。3年間、正門からは一度も入ったことがなかった正真正銘の裏口入学卒業の学生であった。

自分が知っている鶴岡の街とは何だろうか？ 18歳で見える街とそれ以降の年齢で感じることのできる街は大きく隔たっているのだろう。帰省する時は、子供の成長に合わせ、夏や正月に限られていた。限定されたエリアのわずかな時間帯しか新しく知りえなかった。会社生活で、出張や転勤で、様々な地方に行きその街の佇まい・文化を知り、色々な酒・食事を味わうようになると、「鶴岡には？」と思わずにはいられなかった。

鶴岡の桜は素晴らしい。でも、私の記憶の桜は通学路に咲いていた単なる花であり、教室の窓から見える公園の花だった。花咲く時期の帰郷が会社卒業により可能となり満開の桜を夫婦で見ることができたのは昨年だった。贅沢の一言に尽きる。満開の花の下を歩き、夜桜を堪能してちょっぴりのお酒を飲み、眠りについた。

これからは、鶴岡という街を18歳までの記憶ではなく大人となった視点でゆっくり歩きながら、じっくりと楽しみたい。知っているはずの街が新しく見え始めるかもしれない。

東京が教えてくれた"ふるさと"

大高 和加子（昭和58年90回卒）

私は中学2年生の時に北海道から鶴岡へ転校して来ました。鶴岡で暮らしたのは約4年、そのため方言も習得できず、鶴岡を"ふるさと"と心の底から思えない時期がありました。

その感情を変えてくれたのが東京生まれの夫でした。夫は子供の頃、田舎に帰省する友人が羨ましく、「帰る処がある」状況に憧れていたそうです。結婚して一緒に鶴岡に帰省する度に、鶴岡の普通の景色・普通の食物に感嘆の声をあげ、彼の友人達に鶴岡が如何に素晴らしい処かを力説します。東京では、周囲の景色に山があること、家の近くで摘んだ山菜を食べること…は、普通ではないのです。

彼の話を聞いた友人達が「鶴岡に行きたい」と言い出し、だんだんと友人を伴って帰省することが多くなりました。友人達も鶴岡を気に入り、リピーターになっている友人も多くいます。私は友人を案内するために鶴岡の名所、お店等の情報を集めるうちに今まで知らなかった（知ろうとしなかった）"鶴岡のこと"を知ることができました。

いつも帰省すると、優しい自然・食物・家族・友人が包み込むように待っていてくれます。南高時代の友人は芋煮、採りたての野菜、漬物、日本酒などを持参して集まってくれます。時には、ボートを出して海に連れて行ってくれたり…。"ふるさと"がある"幸せを"再発見"している今日この頃です。

ご購入は
ホームページ
http://www.touhokuham.co.jp
クイーンズ伊勢丹
高島屋カイゼルハム
らら テラス武蔵小杉
JAL・ANAポイント交換品
鶴岡市ふるさと納税品
郵便局カタログ

★DLG（ドイツ農業協会）コンテスト金賞受賞
2014年「熟成ベーコン」「あらびきウインナー」
2016年「熟成ロースハム」
★2015年 鶴岡市卓越技能者表彰
（鶴岡の名工）を授賞　ハム職人「谷野哲雄」

昭和九年創業 東北ハム
山形県鶴岡市宝田三丁目 6-58
フリーダイヤル：0120-86-7241
産直直通：0235-28-0086

喜んで働く。
代表取締役 安藤 政則（昭和46年78回卒）

安藤組グループ
グループ本社
山形県東田川郡庄内町提興屋字中島 80
TEL：0234-43-2416　FAX：0234-43-2419
株式会社 安藤組
菅睦建設 株式会社
有限会社 安藤運輸
安藤整備工業 株式会社
株式会社 A. パワー

みみずくデザイン
TEL：03-3607-7003
FAX：03-3627-0169
〒125-005 東京都葛飾区新宿3-30-2
Email:amimizuk@d5.dion.ne.jp

昭和45年
77回卒
佐藤久仁子

取扱保険会社　●メットライフ生命保険株式会社　●東京海上日動火災保険株式会社

Office KACHIDOKI
オフィス勝どき

代表 大泉（おおいずみ） 正（まさし）（昭和 53 年 85 回卒）
日本FP協会会員　相続診断士
〒104-0054　東京都中央区勝どき6-3-1-3422
Tel：03-6794-1208　Fax：03-6734-0498
携帯：090-3816-3367
フリーダイヤル：0800-080-1208
E-mail：oizumi.masashi@mt-kachidoki.jp

旧町名の由来 吉住町　酒井氏時代は寺小路と呼ばれ、龍蔵寺・明伝寺・本住寺等が並ぶ寺町であったが、明治13年の区画変更で新地と合併し、吉住町と命名された。

若いもんホンネ座談会

東京で開く、望郷の扉

偶然目にしたTV番組で、近所のスーパーで、地酒が旨いあのお店で。
故郷に思いを馳せる瞬間は、突然訪れる。それも、ふと。
おめは、どだ？　東京で暮らす中で芽生えた「懐かしい鶴岡」への想いと「これからの鶴岡」への期待を、30代～40代の同窓生が語り合う。

集まってくれた座談会の参加者８名と鶴翔同窓会幹事、第47回実行委員会の面々。

長く居てこそ分かる良さがあれば、離れて見つかる良さもある。いろんな経緯で地元を離れ、東京で暮らす同窓生たちは、どんな時に故郷を想うのだろうか？

２月某日、そんなテーマで語り合うため東京・銀座の小料理屋『壱縁（いちえん）』に集まってくれたのは、30代～40代の同窓生８名。

『壱縁』は、鶴岡市出身の女将が旨い庄内料理と地酒を振る舞うお店ということもあってか、最初に話が盛り上がったのは「食の都」としての魅力だった。

懐かしい食材、旨い酒。それが同窓の輪を広げている

「夏ならだだちゃ豆、秋には芋煮。味はもちろん、味噌の方で（笑）。季節の変わり目が来ると庄内の食べ物が恋しくなる」

「スーパーの生鮮売り場で菊の花が売られているのを見つけると、『庄内の人以外、誰が食べるんだろう？』と不思議に思う（笑）」

中には、子どもが生まれてから実家の親が笹巻きを送ってくれるようになり、そのたびに端午の節句を思い出すという人も。幼いころに慣れ親しんだ食文化は、多くの同窓生の甘い記憶を呼び戻すきっかけになっているようだ。

そして、これら故郷の味は、郷愁の念だけでなく人と人とのつながりも生んでいる。

今回の座談会に参加してくれた40代半ばの同窓生は、「東京・神田にある郷土料理屋『このじょ』でこ井』。高校在籍時はそれほど仲良くなかった同期生とも、昔話や仕事の苦労話を肴に親しく酒を酌み交わすようになったそうだ。

開くと、多くの人が「仕事や夢の実現に奔走した20代～30代を経た後、節目の『卒業20周年』を境に同窓生とのつながりを改めて大事に思うようになる」と言う。庄内の食や旨い酒は、そうした思いを増幅し、同窓の輪を広げる触媒にもなっている。

写真奥から
上野　務さん
（平成５年100回卒）
外資系ＩＴ企業勤務
今野裕之さん
（平成６年101回卒）
開業医
佐藤こずえさん
（平成７年102回卒）
外資系商社勤務
伊藤健吾さん
（平成８年103回卒）
出版社勤務

魅力の多い鶴岡をもっと上手にＰＲできないか？

他に「地元の良さ・素晴らしさを感じる事柄は？」と質問すると、

◆最近は県外からの観光客も増えていると聞く『**赤川花火大会**』

◆ある同窓生が「帰省時に妻や子どもを連れて行くと喜ばれる」と語る複合プール施設の『**ＳＰＡＬＬ（スパール）**』

◆世界初となった合成クモ糸繊維の開発・生産で知られるベンチャー企業『**Ｓｐｉｂｅｒ（スパイバー）**』のニュース

……などなど、たくさんのトピックスが挙がって来た。しかし、その一方で、「良いところがたくさんあるからこそ、今の鶴岡市の状況が口惜しい」と話す卒業生も。

いわく、「食の都という売り文句しかり、鶴岡市には県外に誇れる魅力がたくさんあるのに、ＰＲが下手でいまいち全国区になり切れていない」とのこと。市全体の活性化や観光客誘致に使えそうな幾多の素材を、うまく県外に宣伝できていない現状に、ちょっとしたモヤモヤを感じてしまうのも事実なのだ。

若手だからこそ感じるジレンマと、新しい郷土愛

この現状を変えるには、東京で働き、多少なりとも仕事上のコネクションを持つ東京鶴翔同窓会の面々が率先して動くべきなのかもしれない。ただ、仮に鶴岡へ帰り、地元復興に乗り出そうとしても、**「やはり転職先の少なさがネックになってしまう」**とある卒業生は胸の内を明かす。

現代のようなＩＴ社会なら、場所に縛られず仕事をすることも可能ではある。地域振興への思いとアイデア、人脈を持つ人こそが地元に戻り、起業するなどして行動を起こすべき、という意見もあるだろう。それでも、そういった「点の力」を「面」に広げていくような支援が同時進行で進まなければ、インパクトは小さなもので終わってしまう。

写真奥から
加藤英樹さん
（平成２年97回卒）
ＩＴ企業勤務
齋藤直哉さん
（昭和63年95回卒）
ＥＣ企業勤務
加藤照男さん
（平成５年100回卒）
通信企業勤務
迎田　洋さん
（昭和63年95回卒）
開業医

「例えばインターネット環境の行き届いた**ベンチャー支援用のシェアオフィス**を積極的に開発するなど、市政としてもバックアップしてくれる環境があれば、状況は変わるかもしれない」と、ある同窓生がこぼしていた。

こうした声は、人によっては「鶴岡の今を知らない者のたわごと」と感じるかもしれない。事実、たわごとなのだ。所詮は酒の席での会話である。

それでも、故郷への愛、鶴岡にもっと栄えてほしいという思いがなければ、たわごとすら出てこない。皆の思いがあふれ、こぼれ落ちた酒席の一幕。そう捉えれば、実りある夜だったのかもしれない。

ふるさとターン、決め手は魅力ある仕事…！

皆様、ご協力ありがとうございました！

取材・文／伊藤健吾（平成８年103回卒）
撮影／仁平則行（昭和53年85回卒）

旧町名の由来　大宝寺
中世には鶴岡を大宝寺と称していた。最上氏の時代に鶴ケ岡と改められたものである。酒田の海岸に大きな亀が打ち上げられたのをめでたいとして、酒田の東禅寺城を亀ヶ崎城と改め、それに対して大宝寺城を鶴ケ岡城と改称した。

鶴南NEWS

有意義だった２学年台湾進路研修

鶴南ゼミ台湾進路研修発表「なぜバナナの皮は青いのか？」

２016年11月８日～11日に第２学年は台湾進路研修に行きました。国際理解を深めるというＳＳＨの目的に沿って、海外の提携校と交流することで異文化を理解し、日本文化やゼミの研究について英語で発信できる力を養うことをねらいとして実施されています。

８日に庄内空港から２班に分かれて台湾に移動しました。台北の気温は20度前後ほどで、薄衣だと肌寒く感じました。夜は台湾料理を堪能しましたが、生徒によっては八角のにおいを受け付けない人もいるようでしたが、それも異文化ならではのことだと思います。その後はホテルで翌日の発表に向けての練習をしました。

２日目に、台北市立建国中学の生徒との交流会が行われました。セレモニーでは、両校の校長と生徒代表の挨拶・プレゼントの交換に続いて、両校の生徒代表によるパフォーマンスを披露しました。鶴南ゼミの発表は12グループが英語で発表し、質問に対する受け答えも英語で答えていました。午後は“千と千尋の神隠し”のモデルとなったと言われている九份に行きました。日本とは全く違う町並みで台湾の文化を十分に体験できたと思います。

３日目は故宮博物館・忠烈祠・総統府見学・中国茶道体験などを行い貴重な歴史や文化に触れることができ、とても有意義な研修でした。夜はJTB台北支店の林田社長から講演を頂きました。その中で日本と台湾との深い関係を知り、台湾という国や人々がより近く感じることができるようになりました。

最後の解団式では団長の校長先生から「ミッション コンプリート!!」という言葉を頂くことができたように、生徒それぞれの課題を一人ひとりがしっかりと向き合い、克服できるように努力し、成し遂げることができました。

（SSH通信第22号より）

鶴南ゼミ台湾発表テーマ（12グループ）

①よりリラックスできる？ 1/f ゆらぎとは
②インターネット望遠鏡を使った太陽系惑星外の観測
③人工知能を用いた顔認証
④最大の素数魔方陣を求めて
⑤鮮度測定　ver.4（窒素氷を用いて）
⑥ジャンプの可能性～跳躍高を得るための物理的考察～
⑦温泉で野菜はおいしく育つか
⑧～アプリロニンＡ～ガン医療への応用に向けて
⑨米油による妊娠能力への影響
⑩鶴岡の天神祭にはなぜ化けものがいるのか？
⑪なぜバナナの皮は青いのか？
⑫Effective Study Methods in English for Elementary School Students

街角NEWS

「出羽三山」のＰＲラッピングバス都内でも運行！

昨年来の山形交通、庄内交通に続き、１月下旬から３月31日まで、出羽三山をＰＲする鮮やかなラッピングバス（県教育庁文化財・生涯教育課「出羽三山『生まれ変わりの旅』推進協議会」企画）が、杉並車庫を出発する全５路線を颯爽と駆け抜けました！！

撮影／岡本あい（昭和57年89回卒）

旧町名の由来　京田
鶴岡城下の北に位置し京田のつく10集落がほぼ一直線に並んでいる。地名については①羽黒山の経田説　②武藤氏時代の家臣への給田説　③京都へ運ぶ米を作っていた所という説がある。

「人」を通して観る鶴岡

佐藤 由久（平成15年110回卒）

私は、昨年7月末から約半年間、鶴岡市・酒田市が主催する「マイプロ部in鶴岡・酒田」に参加した。このプログラムでは、主に食文化やシルク生産といった伝統文化保全活動や地域活性化のための活動などを庄内で行っている方々の支援を通して、庄内の今を知り、理解を深めるもので、プログラムの中で数日は庄内に戻って活動する。何かの形で鶴岡に貢献できればという思いもあり参加した。

この活動に参加して新たに出会った庄内の人たちは、大学進学を機に離れる前の庄内人のイメージとは異なり、活気溢れる方ばかりだった。そもそも、鶴岡には盆や正月に帰省はするものの、同じように鶴岡に帰省した同期友人たちと会う時間で、あっという間に過ぎてしまい、新たな人脈を広げることができていなかった。貢献したいという気持ちの一方、全く何もできていないような思いになり、この気づきは自分にとって非常に大きな発見であった。

この活動以外でも、最近は関東エリアに住む旧友たちから、鶴岡に何らかの形で関わりたいという声を聞くことも多くなった。実際に、仲間を募って私たちがどういう形で関われるのか模索している最中である。

マイプロ部の活動で出会った人たちや、鶴岡への思いのある人たちと共に、今まで以上に故郷に関わり、故郷のためにできることを考え、できることから行動に移していきたい。

出会った生徒たちが最大の財産

松浦 孝一（85回、89回、93回、96回卒の担任 昭和43年75回卒）

平成21年4月発行の鶴翔第39号に同じ題の原稿を掲載していただいてから8年が経過しました。その間に東日本大震災が起き、私個人は定年退職をして38年間の教員生活にピリオドを打ちました。世の中も私の周辺状況も大きく変わりましたが、「教員にとって、出会った生徒たちが最大の財産」という思いはいっそう強くなりました。

鶴岡南高で担任したかつての生徒たちからは、退職祝いをしてもらい、東京の鶴翔塾の皆さんからは、平成23年5月の講演会でお話しをする機会を与えていただきました。

定年退職後も現職時代からの持病である心房細動の発作が頻発し、悩んでいた私が手術を受けるきっかけとなったのは、担任した生徒の年賀状でした。「自分はその手術を受けて、発作が出なくなった。先生もまだ若くて体力があるうちに手術した方がいい」という文面に心動かされ、彼と会い詳しい話を聞き、思い切って手術（結果的には2回）を受けました。これによって心房細動は出なくなりました。彼の一枚の年賀状が道を開いてくれたと、ただただ感謝あるのみです。また、私の母が要介護5となり自宅介護の限界を超えて困り果てた時に、アドバイスして救いの手を差し伸べてくれたのも教え子です。他にも、山形県内、特に庄内はどこに行っても卒業生がいて、さりげなく助けてもらうことがしばしばしばです。

今後は体調管理に努めて、私にできる形で教え子たちに恩を返していこうと思うのです。

日本一のブルーベリー園羽黒に誕生
月山高原
鈴木ブルーベリー農園
月山の恵みをいっぱいいただき１万本ものブルーベリー達が元気に育っております。是非一度御越し下さいませ。
月山高原 鈴木農園 ブルーベリー農園
羽黒町上野新田字上台80 TEL&FAX0235-62-4042 www.suzukihaguro.com

ご注文は JA庄内たがわ・もっけだねっと 検索 をクリック！
月山ワイン 山ぶどうの雫
庄内たがわ
代表理事組合長 黒井 徳夫
〒999-7611 山形県鶴岡市上藤島字橋中下3-1
TEL.0235-64-3000 FAX.0235-64-5742 http://www.ja-shonai.or.jp/
720ml 1,836円（税込）

酒菜飯 和食堂 たこ井
蛸井忠夫（昭和48年80回卒）
春／孟宗汁、山菜
夏／だだちゃ豆、岩がき
秋／芋煮、赤かぶ、口細
冬／どんがら汁、ハタハタ
＋ 鶴岡・庄内の地酒
〒135-0047
東京都江東区富岡 1-12-5 1階
TEL:03-5809-8640
Facebook：和食堂たこ井で掲載中

新発売
―だだちゃ豆の味がする―
だだちゃ豆右衛門
Dadacha Mame-emon
だだちゃ豆のダックワーズ だだちゃ豆のフィナンシェ だだちゃもち
つるおか菓子処 木村屋 〒997-0028 山形県鶴岡市山王町9-25 ☎(0235)22-4530(代) URL.http://www.kimuraya-shop.jp/

大衆酒蔵 やまがた
渋谷区道玄坂1-6-5 TEL 3464-8989

料飲店様の総合サポーター
業務用酒類食品販売
KOIKE 業務用酒類食品販売
小池商店
〒997-0026 山形県鶴岡市大東町 16-17
TEL：0235-22-5291
FAX：0235-22-5292

旧町名の由来 遠賀原 鶴岡城下の南に接する農村で、江戸時代には藤原村と稲荷村と称していた。藤原村は藤原氏の一族の落人が開いたとも伝わる。稲荷村は鎮守遠賀神社の古名・稲荷神社に由来する。遠賀神社と藤原の原をとって名付けたものという。

第47回 東京鶴翔同窓会 実行委員会

実行委員長	加藤 孝幸	（47年79回）
副実行委員長	菅 徹	（37年69回）
	百瀬 義徳	（57年89回）
事務局長	渡部 英一	（57年89回）
会報部会 部会長	佐藤 正久	（47年79回）
副部会長	岡本 あい	（57年89回）
	川畑 一郎	（47年79回）
	八幡 準	（47年79回）
	佐藤 洋介	（57年89回）
	花岡 友紀	（57年89回）
広告部会 部会長	田林 憲治	（47年79回）
副部会長	百瀬 義徳	（57年89回）
	斎藤 清	（47年79回）
	小野寺 豊	（57年89回）
会場部会 部会長	川畑 一郎	（47年79回）
	八幡 準	（47年79回）
	酒井比呂子	（47年79回）
	渡部 英一	（57年89回）
会計係	斎藤 香織	（57年89回）
議事録	岡本 あい	（57年89回）
	斎藤 香織	（57年89回）

東京鶴翔同窓会 平成29年度幹事（年度）・役員名簿

平成29年4月1日

会長	菅 徹	（昭37年69回）
常任幹事	大澤 弘之	（29年61回）
〃	安野 正紀	（34年66回）
〃	相馬 省記	（39年71回）
〃	小鷹 光雄	（40年72回）
〃	栗本 浩	（41年73回）
〃	坂田 敬一	（42年74回）
〃	小林 紀雄	（44年76回）
〃	梅津 準士	（45年77回）
〃	杉山 恵子	（45年77回）
〃	小林 桂子	（46年78回）
〃	大泉 正	（53年85回）
〃	篠崎 実	（53年85回）
〃	石川 透	（55年87回）
顧問	佐藤 成生	（27年59回）
〃	渡部 洋	（36年68回）
〃	太田 良弘	（38年70回）
会務監査役	村田 敏	（45年77回）
〃	秋場 守	（53年85回）
事務局長	小林 啓二	（38年70回）
事務局次長	長江 和子	（38年70回）
〃	岡部 次樹	（43年75回）
幹事	渡会 春雄	（15年48回）
〃	青柳 恵一	（18年51回）
〃	菅原 隆輔	（19年52回）
〃	佐藤 良三	（21年54回）
〃	丸谷 錦吾	（25年57回）
〃	窪田 騰	（26年58回）
〃	茂木 勲	（28年60回）
〃	大瀬 振	（29年61回）
〃	村井三千代	（29年61回）
〃	奥田 文夫	（30年62回）
〃	高橋 進	（30年62回）
〃	鎌田 喜子	（31年63回）
〃	平田 宏	（31年63回）
〃	渡部 賢一	（32年64回）
〃	加藤 有紘	（33年65回）
〃	大川 政紀	（34年66回）
〃	坂本 紀夫	（35年67回）
〃	斉藤 敬治	（35年67回）
〃	本間 敬士	（36年68回）
〃	佐藤清四郎	（36年68回）
〃	櫻井孝子	（36年定32回）
〃	安倍 良男	（37年69回）
〃	森田 良治	（37年69回）
〃	尾形 文子	（38年70回）
〃	芳賀 俊郎	（38年70回）
〃	佐藤 祐一	（39年71回）
〃	齋藤 豊三	（40年72回）
〃	兼子 久	（40年72回）
〃	髙嶋 勝平	（41年73回）
〃	平山 静夫	（41年73回）
〃	青島 時子	（42年74回）
〃	菅野 京子	（43年75回）
〃	梅津 千里	（43年75回）
〃	星野 茂	（44年76回）
〃	伊藤 豊	（45年77回）
〃	菅原 誠二	（45年77回）
〃	野間 耕治	（46年78回）
〃	川畑 一郎	（47年79回）
〃	坂田 俊次	（48年80回）
〃	渡部 幹	（48年80回）
〃	王 金城	（49年81回）
〃	石川 康博	（49年81回）
〃	菅井 順朗	（49年81回）
〃	林 みき	（50年82回）
〃	今野 りつ	（50年82回）
〃	江部 信夫	（51年83回）
〃	仁平 則行	（53年85回）
〃	河野 晃	（53年85回）
〃	小池 悟	（54年86回）
〃	小池 一史	（55年87回）
〃	齋藤 弘樹	（55年87回）
〃	遠藤 高志	（56年88回）
〃	小池 宏忠	（56年88回）
〃	関口 太郎	（57年89回）
〃	百瀬 義徳	（57年89回）
〃	岡本 あい	（57年89回）
〃	渡部 英一	（57年89回）
〃	大高和加子	（58年90回）
〃	長沢 重喜	（58年90回）
〃	村山 聡	（平01年96回）

編集後記

簡単に見つかるだろうと思った昭和30～40年代の懐かしい写真。が、なかなか見つからない。そこで同窓会の皆さんに相談。すぐに鶴岡の同窓の方々を紹介して頂き、なんとか集めることができました。鶴翔ネットワークに感謝！です。

▲昭和初期の湯野浜温泉海水浴場。
（提供：鶴岡市湯野浜コミュニティセンター）

▼昭和32年、鶴岡駅側から見た駅前のようす。
（鶴岡市郷土資料館蔵）

郷土資料館で写真を捜していると、段ボール箱の中から可愛い幼少期の自分を発見。資料の一部になった私です（笑）。

懐かしい写真を捜しての思わぬ再開、昔の鶴岡を知ることで見えてくる今の鶴岡、再発見！　だからおもしろい。

▼山形縣立鶴岡中學校の新校旗と第二校歌。表紙と特集ページの鶴岡中學校の写真とセット。これらを見つけたアルバムのページ順から察すると、昭和13年に校舎を焼失し、昭和16年の新校舎落成のおりに出されたと思われます。（提供：佐藤文郎）

「今年もおもしぇぞ　東京の庄内」
（会報部会長）佐藤正久

祝 第47回東京鶴翔同窓会総会
首都圏鶴岡会
事務局 〒134-0088 東京都江戸川区西葛西 7-28-7
TEL:03-5696-6821／FAX:03-5696-6822
（鶴岡市東京事務所内）
―ご入会をお待ちしております―

東京尾浦会
尾浦とは400年前、庄内に酒井氏が入部する以前に君臨していた武藤氏の築いた「尾浦城」にちなんだ大山の旧称です。
会長 加藤 有紘（昭和33年65回卒）
事務局 〒155-0031 東京都世田谷区北沢5-15-12
TEL&FAX 03（3468）0785

大手町 サンケイプラザ
もっとひとりひとりのなかへ。 株式会社 サンケイビル
〒100-0004 東京都千代田区大手町1-7-2 tel.03-3273-2258 fax.03-3273-2258
http:www.s-plaza.com

全国ご当地やきとり
全や連 総本店 TOKYO
東京都千代田区大手町 1-7-2
東京サンケイビルB2F
03-3231-7705
http://www.zenyaren.jp/

鶴翔塾 会報『South Wing 南翔』
第25回 鶴翔塾は秋に開催予定!!
乞うご期待!!
塾頭・篠崎 実 事務局・大泉 正（ともに昭和53年85回卒）
お問い合わせ／ 090-3816-3367（大泉まで）
※鶴翔塾は、皆様のご寄付により運営されています。

全国総本部 ND 方式加盟店
養老乃瀧®
駒込駅前店 北区中里 2-1-2 駒込駅 至池袋 至上野 東口
☎03-3917-7272 大小御宴会承ります。35名様迄。※ご予約・お申し込みはお電話で。
安心の養老の瀧グループ ND 方式加盟店募集中！ http://www.yoronotaki.co.jp

旧町名の由来 鶴岡市ホームページより「旧町名とその由来1～3」を一部編集を施し引用してお届けしました。

第46回 東京鶴翔同窓会総会 出席者名簿

平成28年6月11日(土) 大手町サンケイプラザ

ご 来 賓

鶴岡市 市長代理 東京事務所 所長
伊藤　敦　様

鶴岡南高等学校 校長
京谷　伸一　様

鶴岡南高等学校同窓会 会長
齋藤　正志　様

首都圏鶴岡会 理事
佐藤　浩　様

城畔同窓会（鶴岡工業高等高校）
関東総支部 支部長
小林　武　様

城畔同窓会 東京中央支部 副支部長
大川　繁喜　様

如松同窓会（鶴岡北高等学校）
東京支部 副支部長
油井　智子　様

如松同窓会 東京支部 常任幹事
二村　初美　様

黎明同窓会（鶴岡中央高等学校）
関東支部 支部長
齋藤　仁幸　様

東京亀城会（酒田東高等学校）
会長
元木　徹　様

東京亀城会 副会長
梅津　功　様

紫紺会（酒田商業高等学校）
副会長
齋藤　常夫　様

紫紺会 副会長
根上　良一　様

(公財) やまがた育英会
業務執行理事 寮監
和田　豊　様

(株) 荘内日報 東京支局長
足立　哲郎　様

ご 招 待

マスターフットセラピスト
櫻井　孝子　様

(株) 鶴岡自動車学園
齋藤　征士　様

鶴岡市東京事務所
安達　文和　様

旅館 坂本屋
石塚　亮　様

語部集団 木偶坊
菅原　司　様

(株) ホンマ電機
本間　俊三　様

庄内イイナ会
本間　敬士　様

東京尾浦会
加藤　有紘　様

村田敏法律事務所
村田　敏　様

わたなべ内科胃腸科
渡部　英一　様

(株) アドリブ
伊藤　豊　様

みみずくデザイン
佐藤久仁子　様

和食堂 たこ井
蛸井　文　様

越谷 香取神社
小林　桂子　様

(株) スタジオ・オクト
野間　耕治　様

九段法律事務所
五十嵐康之　様

八千代エンジニアリング
柴田　善光　様

竹の露合資会社
相沢　政男　様

むかえだ歯科クリニック
迎田　洋　様

(株) 出羽庄内地域デザイン
今野　里香　様

オフィス勝どき
大泉　真由美　様

鶴翔塾
篠崎　実　様

一般参加者

昭和～

19年（52回卒）
土岐　良次
野澤　秀二

20年（53回卒）
尾形　昌夫

21年（54回卒）
富樫　泰教

26年（58回卒）
板垣　清
川島　協
窪田　騰
地主　幸右
早川　恒子
匹田　誠
増田　幸子

27年（59回卒）
池田　輝之
石井　忍
小野寺眞哉
工藤　泰久
桑原　貫次
斎藤　優三
佐藤　成生
佐藤本次郎
富樫　近一
中村　順一
西　秀
橋本　信子

28年（60回卒）
加藤　誠
小杉　信
茂木　勲

29年（61回卒）
大瀬　振
権藤　泰浩
佐藤　勇
佐藤　正吾
志村　頴子
武田　好子
村井三千代

30年（62回卒）
飯塚　進
五十嵐隆二
大川　重一
奥田　文夫
工藤　司朗
斎藤　永吉
佐藤　新市
高橋　進
武田　友樹

31年（63回卒）
大滝　恒雄
岡田　恒祐
鎌田　喜子
諏訪　浩
富樫　稔
本間　克彦

32年（64回卒）
榎本　克弘
大高　忠司
小花　吉彦
佐藤　忠夫
高山　弘
永澤萬里野
渡部　賢一

33年（65回卒）
※加藤　有紘
齋藤　正幸
髙田　正雄
本間　義信
渡部　明

34年（66回卒）
※足達　哲郎
大川　政紀
佐藤　武雄
中嶋　茂
長友　安之
百瀬　義広
安野　正紀

35年（67回卒）
渡部　恂

36年（68回卒）
加藤　英二
冠木　敦子
亀井　篤
小林　勝
※櫻井　孝子
佐藤清四郎
荘司　保治
神保　勝彦
陶山　宏
冨樫　惇
平山　端
※本間　敬士
本間　正士
渡部　洋

37年（69回卒）
青木　祐二
安倍　良男
犬塚　吉士
岡田　睦
木村　修司
斎藤　英士
※齋藤　征士
佐藤　征洋
佐藤　志郎
菅　徹
高橋トヨセ
七森　繁満
林　広弥
真嶋　俊平
松島　邦
三浦　勝
森田　良治
吉田　彬
渡会　政雄

38年（70回卒）
五十嵐房夫
板垣　健輔
太田　司郎
太田　良弘
尾形　文子
上林　治
小林　啓二
斉藤　淑人
佐藤　高志
椎名　和子
※菅原　司
富樫　次男
土岐　寛
長江　和子
中西　一角
中野　捷夫
芳賀　俊郎
福原　正和
細野　美保

39年（71回卒）
阿部　良一
上林　正己
坂尾　寛隆
佐藤　祐一
相馬　省記

40年（72回卒）
稲舟　幸純
大舘　敬一
兼子　久
小鷹　光雄
齋藤　豊三
三浦　信次
渡会　偵祐

41年（73回卒）
五十嵐　丕
伊藤恵美子
栗本　浩
関根　勉
髙嶋　勝平
橋本　暁
吉川　治雄

42年（74回卒）
秋野　裕
坂田　敬一
佐藤　憲
真田　充
白幡　孝
千田　優子

43年（75回卒）
阿部　正
石黒　義昭
梅津　千里
岡部　次樹
菅野　京子
坂本　妙子
塩野　俊和
鈴木　研志
田中　眞一
中島　恵子

44年（76回卒）
荒川　園
遠藤　隆
小林　紀雄
斎藤　繁雄
※齋藤　正志
滝口　博志
保多　由子
渡会　慎一

45年（77回卒）
※伊藤　豊
梅津　準士
大滝　実
大場　敏彦
今野　千保
※佐藤久仁子
※柴田　善光
菅原　誠二
杉山　恵子
富樫　修
早坂　四郎
三浦　一郎
※村田　敏

46年（78回卒）
※石塚　亮
大野　好美
小川　弘子
奥田　明
奥村　智子
※小林　桂子
笹浪真智子
佐藤　清子
田中　良彦
丹下　義英
※野間　耕治
本間　徹
村田　久光
森野　麗子
山口　忠司

47年（79回卒）
加藤　孝幸
斉藤　清

48年（80回卒）
梅津　充幸
金子　福美
近藤　景子
坂田　俊次
蛸井　忠夫

49年（81回卒）
石川　康博
大木　佳子
佐藤　文彦
菅井　順朗
登坂　恵理

50年（82回卒）
今野　りつ
林　みき

51年（83回卒）
江部　信夫
奥山　宏子
佐藤　雄喜
冨塚　郁夫
中西　庸
渡邊　春信

52年（84回卒）
鈴木　良清

53年（85回卒）
秋場　守
伊藤　秀夫
大泉　正
齋藤　智
※篠崎　実
中込真知子
仁平　則行

54年（86回卒）
加藤　崇
小池　悟
小林　育子
佐藤　正光

55年（87回卒）
※相沢　正男
石川　透
石塚　幹夫
小池　一史
小松　昭
佐藤　英樹
廣瀬　均

56年（88回卒）
遠藤　高志
小田　典明
金子　美枝
栗山　和子
小池　宏忠
谷田　純子
土岐　肇
成田　章

57年（89回卒）
岡本　あい
小野寺　豊
齋藤　俊司
関口　太郎
花岡　友紀
百瀬　義徳
※渡部　英一

58年（90回卒）
加藤　隆寛
村田　香織

59年（91回卒）
石戸真理子
※伊藤　敦
小暮　志穂
佐藤　路子
佐藤　稔秀
西川　博子

63年（95回卒）
飯田　悟
※迎田　洋

平成～

2年（97回卒）
足立　直紀
阿部　直樹
※五十嵐康之
石名坂京子
大瀧　敬一
加藤　英樹
松田　晶

6年（101回卒）
※安達　文和
今野　裕之

12年（107回卒）
佐藤　美香

15年（110回卒）
齋藤なぎさ

…以上 266 名
（※印は来賓、招待になっている方）

東京鶴翔同窓会　平成28年度収支決算書（案）

（平成28年1月1日～12月31日）

一般会計収支決算書

（単位：円）

収入の部 科目	金額	支出の部 科目	金額
前期より繰入	3,164,785	事務費	46,022
前期事務局活動費残繰入	1,674	（通信運搬費）	11,697
年会費収入	984,000	（振込料金・手数料）	24,658
（郵便振込335人）	703,000	（雑費）	9,667
（当日138人）	281,000	会議費	545,770
		広告費	31,600
雑収入等	72,555	ホームページ管理費	50,000
（役員会他臨時会費）	72,000	東京鶴翔同窓会名簿ファイル更新	23,187
（預金金利　普通）	73	47回総会実行委員会活動費	380,000
（同上　　定期）	482	仮払金：事務局活動費残	86,117
総会会計からの繰入	-7,033		
		次期繰越金	3,053,285
合計	**4,215,981**	合計	**4,215,981**

（単位：円）

一般会計　次期繰越金内訳	
現金	13,478
郵便振替（口座残高）	138,223
普通預金・荘内銀行	133,722
普通預金・三井住友銀行	494,863
定期預金　旧特別会計・荘内銀行	2,272,999
合計	**3,053,285**

第46回　東京鶴翔同窓会総会　収支決算書

収入の部

（単位：円）

科目	内訳 適用	金額	費目計
総会会費（納入者245名）	年長者：32名×4,000	128,000	1,820,000
	一般会員：211名×8,000　3名×4,000 返金 8,000×1名	1,692,000	
広告掲載費	20,000×53件、10,000×3件、40,000×2件、50,000×1件	1,220,000	1,220,000
事務局からの仮受金	実行委員会活動費	380,000	380,000
お祝い金	10,000×（来賓15名）	150,000	150,000
2次会残金	全や連にて2次会	14,000	14,000
書籍販売	1.「浜から聞こえる豊穣」石塚亮　3,000×12	36,000	52,000
	2.「子供方言かるた」1,000×16	16,000	
熊本震災募金	募金 53,042 円	53,042	53,042
合計			**3,689,042**

支出の部

（単位：円）

科目	費目	内訳 適用	金額	費目計
総会費	会場費用（サンケイプラザ支払い費用）	1. 室料：401号室=37,100　202号室=41,900（79,000－広告掲載費20,000）	59,000	1,774,683
		2. 機材、備品、その他	40,525	
		・食材・ドリンク持込料　20,000		
		・サービス係人件費　10,000×2　・コピー 15×35=525		
		3. 飲食費用	1,543,700	
		・日本茶セット 110×30=3,300		
		・同総会パック 6,600×200=1,320,000		
		・飲み放題料金 2,900×76=220,400		
		4. 消費税=1,643,225×8%	131,458	
	持込み食材	1. 小鯛、はたはた、笹巻、ゴマ豆腐、孟宗汁：坂本屋　広告掲載料値引き　-20,000	192,876	231,561
		2. だだちゃ豆：ＪＡ鶴岡　24,300	24,300	
		3. 玉こんにゃく：まるい食品　14,385	14,385	
	持込酒代	富士酒造、竹の露、東北銘醸	170,038	170,038
	土産代	来賓、ゲスト用	35,100	35,100
	イベント費	1. クイズ景品　月山筍：坂本屋、民田茄子、温海かぶ：本長	56,750	129,049
		2. イベント謝礼：石塚亮（坂本屋）	50,000	
		3. 鶴の舞　鶴の刺繍借用お礼	5,000	
		4. 鶴の舞ほか　武道着・袴・法被洗濯代	17,299	
会報発行費：印刷費		1. 印刷費：平河工業社（会報ほか）	185,934	368,334
		2. 会報編集費	182,400	
会報発送費：通信費		1. 会報発送委託費	535,962	572,444
		2. 宛名ラベル出力委託費（サラト）	31,302	
		3. 会報追加発送費	5,180	
通信運搬費		1. 通信運搬費：4,510、7,608	12,118	42,201
		2. はがき後納分　5月：9,313、6月：20,234、7月：536	30,083	
振込料金・手数料		広告掲載費：6,170、総会費：11,280、手数料：1,944	19,394	19,394
実行委員会経費		1. 事務局	140,949	248,229
		2. 広告部会	64,396	
		3. 会報部会	14,166	
		4. 会場部会	28,718	
書籍販売		書籍：「浜から聞こえる豊穣」石塚亮	32,400	47,120
		書籍：「子供方言かるた」制作実行委員会	14,720	
熊本震災募金		熊本震災募金	53,042	57,922
		書籍販売差益 (3,000-2,700)*12=3,600, (1,000-920)*16=1,280	4,880	
支出計				3,696,075
剰余金		一般会計への繰入		(7,033)
合計				**3,689,042**

本会の収支決算(平成28年度一般会計、第46回総会会計)について、厳正に監査をしたところ、両会計の収支決算書のとおり相違ないことを認めます。

平成29年3月28日

会務監査役　村田 敏 ㊞

年会費(維持会費)納入は郵便局の機械振込(ATM)で!!
手数料は40円違います。

28年度 年会費納入者名簿(卒業年次別)

〜もっともっと広げよう! 故郷と母校の絆〜

昭和〜

15年(48回卒)
渡会 春雄

18年(51回卒)
青柳 恵一
渡部 士郎

19年(52回卒)
菅原 隆輔
土岐 良次
野沢 秀二

20年(53回卒)
尾形 昌夫
寒河江辰巳
戸谷 昭夫

21年(54回卒)
大瀬 靖
佐藤 良三
佐藤 四良
富樫 泰教
長谷川久一

23年(55回卒)
伊東 良次
宗片 光一

24年(56回卒)
阿部 善之
川島幸之輔
半田 一郎
村井 正治
渡部 昇一

25年(57回卒)
細井 地久
丸谷 錦吾

26年(58回卒)
阿部 純二
板垣 清
伊藤 幸也
梅津 迪子
風間 蓉子
川島 協
窪田 騰
斎藤 健三
佐藤 四郎
佐藤 俊彦
田部井恭子
地主 幸右
長濱 自明
早川 恒子
四田 誠
藤嶋 郁子
増田 幸子
皆川 英明
山口 鶴子
横山 隆治

27年(59回卒)
池田 輝之
石井 忍
石田 晋
小野寺眞哉
工藤 泰久
桑原 貫次
斎藤 優三
佐藤 成生
佐藤本次郎
鈴木 浩
富樫 近一
中村 順一
西 秀
橋本 信子
山越 廉
渡部 啓三

28年(60回卒)
安部 正
小川 昌子
加藤 誠
小杉 信
杉本 欽也
竹澤雅二郎
豊満 郁子
藤滝 俊
水原 繁美
村上 文
茂木 勲

29年(61回卒)
五十嵐豊雄
大澤 弘之
大瀬 振
小田 里子
加藤 宣
菊地 晴
熊川 禎子
権藤 泰浩
齋藤 貞郎
佐藤 正吾
佐藤 勇
佐藤 啓輔
志村 頴子
武田 好子
長濱 良子
中村 姚
林 富士子
船岡 栄子
南 かねゑ
村井三千代
山中 昊吉

30年(62回卒)
飯塚 進
五十嵐隆二
大川 重一
奥田 文夫
奥山 綏
工藤 司朗
小鷹 悌二
斎藤 永吉
佐藤 新市
佐藤 玲子
鈴木 清
瀬尾 恒雄
高橋 徹
高橋 進
武田 友樹
田澤 政一
富樫 薫
長崎 種子
山口 武
若林 庸夫

31年(63回卒)
大滝 恒雄
岡田 恒祐
鎌田 喜子
斉藤 幸嗣
崎村 茂久
佐久間正二
諏訪 浩
富樫 稔
外池 連子
中山 千史
本間 克彦

32年(64回卒)
新井 健一
生田 俊一
伊藤 隆義
榎本 克弘
大髙 忠司
岡部鉄太郎
河野 景子
小花 吉彦
小谷野範子
齋藤 弘
佐藤 捷治
佐藤 忠夫
佐藤 隆三
椎木 毅
鈴木あさ子
鈴木 啓五
高山 弘
友澤萬里子
永澤萬里野
中村 愃
早川 浩市
真島 知夫
真嶋 美弥
宮本 慶子
渡部 賢一

33年(65回卒)
阿部 文治
泉谷 文穂
加藤 有紘
斎藤 政爾
齋藤 正幸
齋藤 俊輔
佐藤 隆
菅原 宏之
髙田 正雄
平田 惇
本間 義信
渡部 明

34年(66回)
大川 政紀
斉藤 徳蔵
齋藤 成作
佐藤千久郎
佐藤 武雄
鈴木 一
鈴木 康子
中嶋 茂
長友 安之
三矢 正士
村田 良
百瀬 義広
安野 正紀
渡部 宗助

35年(67回卒)
池田 晃
上野 益男
大沼 順耳
粕谷 淳二
近藤 進
齋藤 敬治
坂本 紀夫
渡辺 恂

36年(68回卒)
加藤 英二
冠木 敦子
亀井 篤
小林 勝
今間 洋一
櫻井 友彦
櫻井 孝子
佐藤清四郎
佐藤 久喜
荘司 保治
神保 勝彦
陶山 宏
冨樫 惇
平山 端
本間 正士
本間 敬士
真島 浩子
渡部 洋

37年(69回卒)
青木 祐二
安倍 良男
犬塚 吉士
岡田 睦
工藤 雅子
古村 一枝
斎藤 英士
齋藤 征士
佐藤 征洋
佐藤 志郎
菅 徹
高橋トヨセ
武田 二郎
七森 繁満
林 茂一
林 広弥
堀 正俊
本間 雄士
真嶋 俊平
松島 邦
三浦 勝
森田 良治
吉田 彬
渡会 政雄

38年(70回卒)
五十嵐房夫
板垣 健輔
伊藤 進康
上野 尚之
太田 司郎
太田 良弘
尾形 文子
上林 治
小林 啓二
齋藤 淑人
寒河江孝允
佐藤 高志
志賀 嘉美
菅原 司
土井征一郎
富樫 次男
土岐 寛
長江 和子
中西 一角
中野 捷夫
中野不二男
芳賀 俊郎
福原 正和
細野 美保

39年(71回卒)
阿部 良一
金内 彰
上林 正己
坂尾 寛隆
佐藤 克広
佐藤 祐一
相馬 省記

40年(72回卒)
五十嵐治男
稲舟 幸純
犬塚 恒士
岩城 清一
上野 藤吉
大舘 敬一
大沼 悌三
兼子 久
小鷹 光雄
小林 敬己
齋藤 豊三
高橋 恵子
伊達由美子
成田 仙一
三浦 信次
渡会 偵祐

41年(73回卒)
五十嵐 丕
石川まさ井
伊藤恵美子
栗本 浩
栗本 絢子
齋藤 彌市
齋藤 耕治
関根 勉
髙嶋 勝平
髙田 京子
田畑伊都子
中村 正彦
成沢 義明
新村 紀子
橋本 暁
平山 静夫
広木由美子
丸山 治
吉川 治雄
渡部 藤雄
渡辺 勉

42年(74回卒)
青島 時子
秋野 裕
伊田 寛
井上 茂
桂嶽 みな
木戸美記子
坂田 敬一
坂本 誠
指田重治郎
佐藤 潔
佐藤 秀子
佐藤 憲
真田 充
白幡 孝
舌津 一良
千田 優子

43年(75回卒)
阿部 正
石黒 義昭
伊藤 高夫
梅津 千里
岡部 次樹
菅野 京子
坂本 妙子
佐藤 英一
塩野 俊和
進藤 仁
鈴木 研志
田中 眞一
中島 恵子
松浦かおる
若松 秀一

44年(76回卒)
荒川 園
遠藤 隆
小林 紀雄
齋藤さよ子
斎藤 繁雄
佐藤 眞一
滝口 博志
保多 由子
渡会 慎一

45年(77回卒)
五十嵐 章
石井みどり
伊藤 豊
梅津 準士
大滝 実
大場 敏彦
黒川 俊美
今野 千保
佐藤久仁子
柴田 善光
菅原 誠二
杉山 恵子
富樫 修
早坂 四郎
三浦 一郎
村田 敏

46年(78回卒)
石塚 亮
大野 好美
小川 弘子
奥田 明
奥村 智子
小林 桂子
笹浪真智子
佐藤 清子
田中 良彦
丹下 義英
野間 耕治
本間 徹
村田 久光
森野 麗子
山口 忠司

47年(79回卒)
秋野 千鶴
加藤 孝幸
斉藤 清
酒井比呂子
佐藤 正志

48年(80回卒)
井ノ口明子
梅津 充幸
榎本 新也
金子 福美
坂田 俊次
蛸井 忠夫

49年(81回卒)
石川 康博
大木 佳子
蒲 淳子
佐藤 文彦
菅井 順朗
登坂 恵理
野田 順一
吉住 明彦

50年(82回卒)
荒木 厚
荒木 陽子
板垣 隆
上野聡一郎
奥山 清子
今野 りつ
斎藤 宏之
林 みき
渡部 尚登

51年(83回卒)
江部 信夫
大須賀幸子
奥山 宏子
齋藤 和春
佐藤 雄喜
冨塚 郁夫
中西 庸
野川 観清
渡邊 春信
渡邊ひとみ

52年(84回卒)
鈴木 良清
中村 範明

53年(85回卒)
秋場 守
伊藤 秀夫
大泉 正
齋藤 智
篠崎 実
中込真知子
仁平 則行
福原南津子

54年(86回卒)
加藤 崇
川口 桂子
小池 悟
小林 育子
佐藤 正光
横屋 一弥

55年(87回卒)
相澤 政男
石川 透
石塚 幹夫
小池 一史
小松 昭
佐藤 英樹
富樫 亮
廣瀬 均
萬年 啓一
森内 正美

56年(88回卒)
遠藤 高志
小田 典明
金子 美枝
栗山 和子
小池 宏忠
谷田 純子
土岐 肇
成田 章
渡辺 敦

57年(89回卒)
青山 緑
大塚 明子
岡本 あい
小野寺 豊
小泉 智和
斎藤 俊司
関口 太郎
花岡 友紀
百瀬 義徳
渡部 英一

58年(90回卒)
池田 由喜
加藤 隆寛
村田 香織
石戸真理子

59年(91回卒)
小暮 志穂
佐藤 路子
佐藤 稔秀
大作あゆみ
西川 博子

60年(92回卒)
中島 浩子

63年(95回卒)
飯田 悟
大泉 仁晴
迎田 洋

平成〜

元年(96回卒)
福守 久子

2年(97回卒)
足立 直紀
阿部 直樹
荒沢 正敏
五十嵐康之
石名坂京子
大瀧 敬一
加藤 英樹
松田 晶

5年(100回卒)
山品 晴美

6年(101回卒)
今野 裕之

8年(103回卒)
野尻 善之

12年(107回卒)
佐藤 美香

15年(110回卒)
齋藤なぎさ

19年(114回卒)
水野 重邦

…以上473名

第46回 東京鶴翔同窓会総会 出席者名簿

平成28年6月11日(土) 大手町サンケイプラザ

ご来賓

鶴岡市 市長代理 東京事務所 所長
伊藤 敦 様

鶴岡南高等学校 校長
京谷 伸一 様

鶴岡南高等学校同窓会 会長
齋藤 正志 様

首都圏鶴岡会 理事
佐藤 浩 様

城畔同窓会(鶴岡工業高等高校)
関東総支部 支部長
小林 武 様

城畔同窓会 東京中央支部 副支部長
大川 繁喜 様

如松同窓会(鶴岡北高等学校)
東京支部 副支部長
油井 智子 様

如松同窓会 東京支部 常任幹事
二村 初美 様

黎明同窓会(鶴岡中央高等学校)
関東支部 支部長
齋藤 仁幸 様

東京亀城会(酒田東高等学校)
会長
元木 徹 様

東京亀城会 副会長
梅津 功 様

紫紺会(酒田商業高等学校)
副会長
齋藤 常夫 様

紫紺会 副会長
根上 良一 様

(公財)やまがた育英会
業務執行理事 寮監
和田 豊 様

(株)荘内日報 東京支局長
足立 哲郎 様

ご招待

マスターフットセラピスト
櫻井 孝子 様

(株)鶴岡自動車学園
齋藤 征士 様

鶴岡市東京事務所
安達 文和 様

旅館 坂本屋
石塚 亮 様

語部集団 木偶坊
菅原 司 様

(株)ホンマ電機
本間 俊三 様

庄内イイナ会
本間 敬士 様

東京尾浦会
加藤 有紘 様

村田敏法律事務所
村田 敏 様

わたなべ内科胃腸科
渡部 英一 様

(株)アドリブ
伊藤 豊 様

みみずくデザイン
佐藤久仁子 様

和食堂 たこ井
蛸井 文 様

越谷 香取神社
小林 桂子 様

(株)スタジオ・オクト
野間 耕治 様

九段法律事務所
五十嵐康之 様

八千代エンジニアリング
柴田 善光 様

竹の露合資会社
相沢 政男 様

むかえだ歯科クリニック
迎田 洋 様

(株)出羽庄内地域デザイン
今野 里香 様

オフィス勝どき
大泉 真由美 様

鶴翔塾
篠崎 実 様

一般参加者

昭和〜

19年(52回卒)
土岐 良次
野澤 秀二

20年(53回卒)
尾形 昌夫

21年(54回卒)
富樫 泰教

26年(58回卒)
板垣 清
川島 協
窪田 騰
地主 幸右
早川 恒子
四田 誠
増田 幸子

27年(59回卒)
池田 輝之
石井 忍
小野寺眞哉
工藤 泰久
桑原 貫次
斎藤 優三
佐藤 成生
佐藤本次郎
富樫 近一
中村 順一
西 秀
橋本 信子

28年(60回卒)
加藤 誠
小杉 信
茂木 勲

29年(61回卒)
大瀬 振
権藤 泰浩
佐藤 勇
佐藤 正吾
志村 頴子
武田 好子
村井三千代

30年(62回卒)
飯塚 進
五十嵐隆二
大川 重一
奥田 文夫
工藤 司朗
斎藤 永吉
佐藤 新市
高橋 進
武田 友樹

31年(63回卒)
大滝 恒雄
岡田 恒祐
鎌田 喜子
諏訪 浩
富樫 稔
本間 克彦

32年(64回卒)
榎本 克弘
大高 忠司
小花 吉彦
佐藤 忠夫
高山 弘
永澤萬里野
渡部 賢一

33年(65回卒)
※加藤 有紘
齋藤 正幸
髙田 正雄
本間 義信
渡部 明

34年(66回卒)
※足達 哲郎
大川 政紀
佐藤 武雄
中嶋 茂
長友 安之
百瀬 義広
安野 正紀

35年(67回卒)
渡部 恂

36年(68回卒)
加藤 英二
冠木 敦子
亀井 篤
小林 勝
※櫻井 孝子
佐藤清四郎
荘司 保治
神保 勝彦
陶山 宏
冨樫 惇
平山 端
※本間 敬士
本間 正士
渡部 洋

37年(69回卒)
青木 祐二
安倍 良男
犬塚 吉士
岡田 睦
木村 修司
斎藤 英士
※齋藤 征士
佐藤 征洋
佐藤 志郎
菅 徹
高橋トヨセ
七森 繁満
林 広弥
真嶋 俊平
松島 邦
三浦 勝
森田 良治
吉田 彬
渡会 政雄

38年(70回卒)
五十嵐房夫
板垣 健輔
太田 司郎
太田 良弘
尾形 文子
上林 治
小林 啓二
斉藤 淑人
佐藤 高志
椎名 和子
※菅原 司
富樫 次男
土岐 寛
長江 和子
中西 一角
中野 捷夫
芳賀 俊郎
福原 正和
細野 美保

39年(71回卒)
阿部 良一
上林 正己
坂尾 寛隆
佐藤 祐一
相馬 省記

40年(72回卒)
稲舟 幸純
大舘 敬一
兼子 久
小鷹 光雄
齋藤 豊三
三浦 信次
渡会 偵祐

41年(73回卒)
五十嵐 丕
伊藤恵美子
栗本 浩
関根 勉
髙嶋 勝平
橋本 暁
吉川 治雄

42年(74回卒)
秋野 裕
坂田 敬一
佐藤 憲
真田 充
白幡 孝
千田 優子

43年(75回卒)
阿部 正
石黒 義昭
梅津 千里
岡部 次樹
菅野 京子
坂本 妙子
塩野 俊和
鈴木 研志
田中 眞一
中島 恵子

44年(76回卒)
荒川 園
遠藤 隆
小林 紀雄
斎藤 繁雄
※齋藤 正志
滝口 博志
保多 由子
渡会 慎一

45年(77回卒)
※伊藤 豊
梅津 準士
大滝 実
大場 敏彦
今野 千保
※佐藤久仁子
※柴田 善光
菅原 誠二
杉山 恵子
富樫 修
早坂 四郎
三浦 一郎
※村田 敏

46年(78回卒)
※石塚 亮
大野 好美
小川 弘子
奥田 明
奥村 智子
※小林 桂子
笹浪真智子
佐藤 清子
田中 良彦
丹下 義英
※野間 耕治
本間 徹
村田 久光
森野 麗子
山口 忠司

47年(79回卒)
加藤 孝幸
斉藤 清

48年(80回卒)
梅津 充幸
金子 福美
近藤 景子
坂田 俊次
蛸井 忠夫

49年(81回卒)
石川 康博
大木 佳子
佐藤 文彦
菅井 順朗
登坂 恵理

50年(82回卒)
今野 りつ
林 みき

51年(83回卒)
江部 信夫
奥山 宏子
佐藤 雄喜
冨塚 郁夫
中西 庸
渡邊 春信

52年(84回卒)
鈴木 良清

53年(85回卒)
秋場 守
伊藤 秀夫
大泉 正
齋藤 智
※篠崎 実
中込真知子
仁平 則行

54年(86回卒)
加藤 崇
小池 悟
小林 育子
佐藤 正光

55年(87回卒)
※相沢 正男
石川 透
石塚 幹夫
小池 一史
小松 昭
佐藤 英樹
廣瀬 均

56年(88回卒)
遠藤 高志
小田 典明
金子 美枝
栗山 和子
小池 宏忠
谷田 純子
土岐 肇
成田 章

57年(89回卒)
岡本 あい
小野寺 豊
齋藤 俊司
関口 太郎
花岡 友紀
百瀬 義徳
※渡部 英一

58年(90回卒)
加藤 隆寛
村田 香織

59年(91回卒)
石戸真理子
※伊藤 敦
小暮 志穂
佐藤 路子
佐藤 稔秀
西川 博子

63年(95回卒)
飯田 悟
※迎田 洋

平成〜

2年(97回卒)
足立 直紀
阿部 直樹
※五十嵐康之
石名坂京子
大瀧 敬一
加藤 英樹
松田 晶

6年(101回卒)
※安達 文和
今野 裕之

12年(107回卒)
佐藤 美香

15年(110回卒)
齋藤なぎさ

…以上266名
(※印は来賓、招待になっている方)